

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略1】若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～
目標	【目標①】子育て環境日本一【重点目標】
基本的方向性 (抜粋)	若い世代が安心して結婚し、子どもを産み育てられるよう、子育てしやすい環境の整備や、出会いから結婚、妊娠、出産、子育てなど、各ライフステージに応じた支援の展開により、子育て環境日本一のまちを目指します。

2 各施策の進捗状況について

① 「子どもと住みたい龍ヶ崎」の実現

保育環境や学童保育ルームの充実、子育て・仕事の両立支援、小児救急医療等の医療体制の充実など、子育てしやすい環境を整備し、「子どもと住みたい龍ヶ崎」の実現を目指します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.10～14】		<p>●保育環境の充実 既存の保育施設の定員数の増加や認可外保育所が認可保育所へ移行する等により、待機児童を減らすための取組を実施し、当該保育を維持するために、保育士等へのサポートを強化(修学資金貸付額の増額及び家賃補助の増加等)し、保育環境の充実を図った。</p> <p>●学童保育ルームの充実 令和2年4月から学童保育ルームの民間事業者への委託を進める準備を行い、効果的で安定的なサービスが提供できることとなった。</p> <p>●4歳児眼の健康診査の実施 健康診査受診率が約95%となっており、小児の眼の疾患の早期発見につながっている。</p> <p>●その他の事業 小児救急医療輪番制の運営、こどもまつりの実施、子育て支援センターの運営、駅前こどもステーションの運営など</p>					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	保育所の待機児童数(人)	0	0	0	0		0
②	駅前こどもステーションに満足している利用者の割合(%)	-	97.7	100(送迎分) 96.7(支援センター分)	95.7(送迎分) 100(支援センター分)		80
③	学童保育ルームの待機児童数(人)	0	0	0	0		0
④	病院・医院の数と夜間・休日などの医療サービス体制に満足している市民の割合(%)	39.4 (H28)	-	42.2	-		50
⑤	子育てと仕事が両立しやすい職場環境であると感じている保護者の割合(%)	54.8 (H26)	-	64.3	75.8		62
進捗状況評価	現状分析	<p>●「保育所の待機児童数」は、引き続き平成31年4月1日現在で「0」を維持している。既存の保育施設の定員数増加や認可外保育所の認可保育所への移行等の受入体制強化が要因の一つと考えられる。(なお、令和元年10月1日現在では「68」で、前年と比べて「22」の増となっている。)また、「学童保育ルームの待機児童数」は、引き続き年間を通じて「0」を維持。</p> <p>●駅前こどもステーションは、送迎機能の強化を図る等の利用者環境の改善により、送迎の利用者数は前年度に比べ若干減少(31人→27人)しているものの、「満足している利用者の割合」は、引き続き高い数値を維持している。</p> <p>●「医療サービス体制への満足度」については、4歳児眼の健康診査の受診率は、約95%を達成し、病気の早期発見・早期治療につながっていることや、小児救急医療輪番制・休日当番医制度などの着実な取組により、引き続き数値の上昇が期待できる。また、「子育てと仕事の両立しやすさ」については、前述の健診・利用体制の定着により、大きく上昇しており、目標値を達成した。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	保育所等の受入れ体制の充実に向けて、引き続き、施設整備等のハード面と保育士確保等のソフト面の両面からの取組を進める。駅前こどもステーション、子育て支援センター等を拠点とした子育て支援サービスについては、市民ニーズに応じて適宜サービスの見直し等を行いながら、在宅育児等の負担軽減に努める。また、さらなる医療サービス体制の推進に当たっては、医師の働き方改革の動向を踏まえた医師の確保が重要であり、これらに対応する取組を検討していく。					

② 出会い・結婚・妊娠・出産・子育ての各ステージに対応した切れ目のない支援

出会いの場の提供、不妊治療等に対する支援、子育てに関する相談体制の充実など、各ステージに応じた支援の充実を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.15～18】		●「龍ヶ崎市版ネウボラ」等のきめ細やかな子育て支援の充実 保健師・母子保健コーディネーター・子育て支援コンシェルジュを中心に、妊娠・出産から産後までのサポート体制を確保し、支援が必要な妊婦への支援計画の作成、電話での支援、産後ケア、乳児家庭の全戸訪問等を実施するとともに、電子母子手帳サービス「たつのこたち」の運用等による利便性向上を図った。 ●その他の事業 小児インフルエンザ予防接種・ロタ予防接種・おたふくかぜ予防接種の費用助成、不妊治療・不育症治療費の助成、マタニティタクシー費用の助成など					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	年間の出生数(人)	543	489	436	423		600
②	妊娠・出産の支援に対し満足している市民の割合(%)	80.5	85	86	83.9		85
③	乳児家庭全戸訪問の満足度(%)	72	93.1	94.3	92.8		90
進捗状況評価	現状分析	●「妊娠・出産の支援に対して満足している市民の割合」は、減少しているものの、8割を超えており、市民への事業の定着が一定程度進んでいるものと思われる。また、「乳児家庭全戸訪問の満足度」は、引き続きベース値と比較して上昇しているが、前年度と比較するとやや減少傾向にあるが、9割を超えており、妊娠期から子育て期にかけての切れ目のない支援・相談体制の確保や乳児家庭全戸訪問の実施が定着してきている。 ●不妊症・不育症治療費、各種予防接種への助成等、各ステージに対応した支援メニューも充実してきている。 ●「年間の出生数」は、全国的な傾向とはいえ、ベース値と比較すると年々減少しており、現時点において、出生数の増加を見込むことができない。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	今後も、子育て世代包括支援センターや子育て支援コンシェルジュによる相談・支援体制の強化、不妊治療費等助成の充実に努めるとともに、新設のこども家庭総合支援室と連携しながら、きめ細やかな支援に努める。また、出会いから結婚までのステージについては、これまでの取組の成果を踏まえながら、施策の充実を検討する。					

③ 若者・子育て世代への経済的な支援

住み替え支援、医療費の助成など、若者・子育て世代を経済的な面から支援します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.19～21】		<p>●若者・子育て世代の住み替え支援 若者・子育て世代住宅取得補助金を拡充(転入者加算の増額、対象住宅の拡大、申請時の添付資料の削減等)した。また、茨城県宅地建物取引業協会支部との情報交換や各種イベント時の制度周知に努めた。</p> <p>●多子世帯支援 第3子以降の保育料軽減を図るすくすく保育助成金事業(令和元年10月からの幼児教育無償化により終了)や第3子以降の小中学生の給食費負担金の免除を行った。</p> <p>●その他の事業 禁煙外来受診費助成、ヘルス講演会の開催など</p>					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	★住み替え支援による転入世帯数(世帯)	—	50	92	131		延べ250 (H29～R3)
②	住み替え支援に対する満足度(%)	—	78.5	74.1	85.1		80
③	第3子の出生数(人)	92	87	85	78		114
進捗状況評価	現状分析	<p>●「住み替え支援に対する満足度」は、前年度と比べ大きく増加し、目標値を達成している。若者・子育て世代住宅取得補助金の拡充によるものと思われ、申請数は、前年度比で若干減少(165件→154件)しているものの、制度の認知度や制度が住み替えの後押しになった割合等の上昇もみられ、一定程度の効果が得られている。</p> <p>●「第3子の出生数」は、全国的な傾向とはいえ、ベース値から大きく離れ、目標値の達成は難しい状況である。多子世帯支援等の応援策を継続して行っているが、効果が十分に得られていない。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	若者・子育て世代住宅取得補助金については、関係機関等との連携をはじめ、広報紙や子育て情報誌への掲載等、様々な媒体を活用しながら制度の周知を図り、住み替えを支援し、定住を促進する。また、令和3年度までの事業であることから、今後の社会動向や市民ニーズ等を勘案しながら継続の可否を含め、支援のあり方を検討する。					

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略1】若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～
目標	【目標②】住んでみたいと感じるまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	都心への通勤圏であることの優位性を活かした都心に通えるまちづくりを進め、転入促進・転出抑制を図ります。また、特色ある教育環境の創造や生涯学習・生涯スポーツの推進などにより、住んでみたいと感じるまちづくりを進めます。さらに、豊かな自然を守り、未来へ引き継ぐためにも、自然・人にやさしい環境づくりに取り組めます。

2 各施策の進捗状況について

① 「選ばれるまちづくり」による移住・定住の促進

JR常磐線龍ヶ崎市駅へのアクセス性向上など、市内交通網の拡充により「都心に通えるまちづくり」を進めるとともに、観光振興、本市の優位性や魅力度の発信などにより、「選ばれるまちづくり」を目指します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.22～29】	<ul style="list-style-type: none"> ●居住環境の優位性・魅力度の戦略的PRの展開 子育て環境情報サイト「子育てたつこのアクション」にユーザー投稿機能を実装し、市民等からの「口コミ」を投稿してもらうことで、より幅広いユーザーへの認知獲得を図った。また、各種タウン誌での情報掲載、ウエルカムガイド「龍ヶ崎子育て応援ガイド」の作成等、子育て環境・居住環境の優位性を前面に押し出したPR活動を行った。 ●龍ヶ崎コロッケ日本一事業 令和元年9月に「第7回全国コロッケフェスティバルin龍ヶ崎」を開催し、約57,000人の来場があった。 ●「通えるまちづくり」の推進 市内交通網の充実に向け、JR常磐線龍ヶ崎市駅東口ロータリー改修に係る警察等との協議やJR常磐線龍ヶ崎市駅～関東鉄道竜ヶ崎線竜ヶ崎駅間の深夜バスの運行などを実施した。 ●その他の事業 若者・子育て世代住宅取得補助金交付事業【再掲】、観光アンバサダーによる観光PR、地域公共交通網形成計画の策定、空家バンクの活用など
--	---

重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	純移動数(20～49歳)(住民基本台帳人口移動報告)(人)	△333	△153	△137	△206		10
②	住み続けたいと感じる市民の割合(21歳～50歳)(%)	77.7 (H28)	—	76.6	—		83
③	空家の再活用数(件)	—	—	1	0		20
④	路線バスの年間利用者数(人)	1,082,244	1,093,933	1,099,210	792,809		1,092,000
⑤	鉄道やバスなど公共交通機関の利便性に満足している市民の割合(%)	21.3 (H28)	—	24.8	—		38
⑥	年間観光入込客数(人)(茨城県観光客動態調査報告)	314,500 (H26中)	262,500	250,764	213,859		850,000

進捗状況評価	現状分析	<ul style="list-style-type: none"> ●「公共交通機関の利便性の満足度」は、コミュニティバスの再編等に伴う市内交通の利便性向上等により、今後上昇することが期待できる。1月当たりの平均乗客数も再編前後を比較すると、増加傾向(16,291人→16,617人)にある。一方、路線によっては、乗車率が低い路線も存在している。 ●「住み続けたいと感じる市民の割合(21歳～50歳)」は、子育て環境情報サイト「子育てたつこのアクション」でのサービス強化により、閲覧数の向上も見込まれることから、今後上昇することが期待できる。 ●「空家の再活用数」については、空家の適正管理は進んでいるものの、マッチングも含め、活用までには至っていない。 ●「年間の観光入込客数」は、大幅に減少の傾向となっている、イベント開催時の大雨等や年度末にあっては、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛等の外的要因にも大きく影響されている部分がある。
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある
	今後の施策・事業展開の方向性	コミュニティバスの再編等による市域内の移動環境の向上や子育て環境のPR・龍ヶ崎コロッケといった素材を活用して、積極的に取り組んでおり、当該部分に対しては、効果も出てきている。また、市の良さを前面にPRするとともに、市民自らが考えた良さを発信していくことで、市の魅力の再発見、交流人口・関係人口等の増加につなげていく。一方で、外的要因に大きく影響されているものの、観光入込客数の大幅な減少等に対する対応が急務である。さらに、移住・定住の視点も含め、空家の有効活用を図るための取組についても推進する。

② 特色ある教育環境の創造

学力向上と主体的な学びをサポートするために、多様な学習機会の提供や地域資源を活かした体験型の教育環境の創造など、特色ある教育環境の充実に努めます。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.30～33】		<p>●多様な学習機会の提供 小学校3年生から6年生までを対象に、民間ノウハウを活かしながら、アフタースクールは8校で、サタデースクールは3校で実施した。</p> <p>●地域との交流事業の推進(魅力ある学校づくり推進事業)、龍・流連携事業の拡充 地域の住民や流通経済大学の学生と連携し、国際交流や伝統芸能体験、地区運動会等、児童生徒に対し多様な学習・活動の機会を提供し、児童生徒の生きる力の育成を図るとともに、地域の住民も参加するフォーラムの実施を行った。また、小中学校へのボランティア学生の派遣事業を継続して実施している。</p> <p>●その他の事業 少人数指導・チームティーチングによる習熟度別指導など</p>					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	サマースクールへの児童生徒の延べ参加人数(人)	児童5,914 生徒4,379	児童5,428 生徒4,558	児童5,245 生徒4,129	児童5,225 生徒4,099		児童6,500 生徒4,800
②	全国学力・学習状況調査における児童(小学6年生)・生徒(中学3年生)への質問事項のうち、国語及び算数・数学の授業の理解度(%)	小学校 79.3 中学校 67.5 (H22-27平均)	小学校 78.8 中学校 62.8	小学校 81.8 中学校 63.6	小学校 80.6 中学校 71.2		小学校 85 中学校 75
③	茨城県学力診断のためのテストで県平均を上回っている児童(小学3年生～6年生)・生徒(中学1年生～3年生)の割合(%)	小学国語 51 小学算数 52 中学国語 55.1 中学数学 55.4	小学国語 50.4 小学算数 46.5 中学国語 53.6 中学数学 51.4	小学国語 47.8 小学算数 49.2 中学国語 47.6 中学数学 48.4	小学国語 48.5 小学算数 52.2 中学国語 53.1 中学数学 48.6		小学国語60 小学算数60 中学国語60 中学数学60
④	地域ボランティア等活用校及び延べ人数(上段:校、下段:人)	13 3,286	17 2,975	17 3,151	17 4,024		17 4,000
⑤	龍・流連携事業によるボランティア協力学生数(人)	220	304	216	237		220
進捗状況評価	現状分析	<p>●特色ある教育環境の創造に向け、アフタースクール・サタデースクール、魅力ある学校づくり推進事業による地域住民との交流、流通経済大学との連携事業などを幅広く展開しており、全体としては学習環境や内容の多様化が図れている。</p> <p>●「茨城県学力診断のためのテストで県平均を上回っている児童・生徒の割合」は、前年度と比べて上昇傾向にあるものの、小学算数を除き、ベース値を下回っており、引き続き基礎学力の定着のための施策の充実に検討する必要がある。</p> <p>●「地域ボランティア等の活用人数」や「龍・流連携事業によるボランティア協力学生数」は、継続した活動により、ベース値より高くなっており、目標値を達成している。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	多様な学習環境や内容の充実は、引き続き地域住民や流通経済大学との連携を図りつつ、新たな取組との連携も視野に入れながら、より児童生徒の学習に対する興味関心を高めていく。一方で、児童生徒の学習への興味関心を、基礎学力の向上へとつなげるような習熟度別学習や個を生かすきめ細かい指導を引き続き行っていく。					

③ 大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進

流通経済大学などとの連携により、市民大学講座の開催などによる生涯学習の推進を図るとともに、トップアスリートの育成や生涯スポーツの推進を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.34～38】		●国際スポーツ大会キャンプ等招致活動委員会の運営及びスポーツ交流協会による交流事業の推進 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた海外チームのキャンプ地招致に関して、「龍ケ崎市スポーツ交流協会」と連携し、オセアニア・ジュニア柔道交流会や小中学校でのオリンピックの講演会の実施、各種イベント時におけるPR活動を行った。 ●スポーツツーリズムの推進 平成31年4月にプロ野球独立リーグ公式戦、令和元年6月にプロ野球イースタンリーグ公式戦を開催した。また、スポーツによる官民連携を図るため「北海道×茨城県プロジェクト」に参画し、市民が参加した「東京ドームチャレンジツアー」等による活動を行った。 ●スポーツによる交流人口の増加 国民体育大会の本大会の運営実施及び各種団体等との連携による交流活動を実施した。 ●その他の事業 総合型地域スポーツクラブの支援、ランニングクリニックの実施、ウォーキング講座の実施、トップアスリートの育成・支援など					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	市民大学講座の延べ参加者数(人)	113	625	661	580		160
②	総合型地域スポーツクラブ会員数(人)	436	412	423	456		800
③	スポーツ全国大会出場件数(大学生を除く。) (件)	56	43	42	51		70
④	総合運動公園の延べ利用者数 (利用者数+観覧者数)(人)	379,623	381,006	374,289	348,003		455,000
進捗状況評価	現状分析	●市民大学講座は、継続的に大学等との連携を強化するとともに、市民ニーズを把握しながら事業を実施してきた結果、目標値を大きく上回っている。 ●「総合型地域スポーツクラブ会員数」は、活動内容は充実しつつあるものの、会員数の増加につながっていない。現状では目標値の達成は難しい状況である。 ●「総合運動公園の利用者数」は、国民体育大会実施による一般利用の中止と新型コロナウイルス感染症に伴う施設閉館が主たる要因となり、大きく減少している。外的要因に伴うものとはいえ、ベース値と比べても減少傾向であり、目標値の達成は難しい状況にある。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	国民体育大会やオリンピック等の大きな大会を契機とし、スポーツを軸とした交流人口の増加や生涯学習の定着への取組を展開する。一方で、数値的なものでは、なかなか目標値への到達は難しい状況となっており、現状の取組を再度分析した上で、目に見える成果へつなげるための仕組みを検討していく必要がある。					

④ 環境先進都市を目指したまちづくりの推進

市民・事業者・行政が協力し、低炭素社会・循環型社会構築のために積極的に取り組み、自然・人にやさしい「環境先進都市・龍ヶ崎」の実現を目指します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.39～43】		<p>●地域リサイクル事業の充実、生ごみ減量の推進 ごみ減量やごみのリサイクルに関する周知や意識啓発のため、市民環境フェアでのブース設置や子ども環境教室を実施したほか、市広報紙や公式ホームページ等での周知等を行った。また、食品ロスの削減を図るため、竜ヶ崎料理旅館飲食業組合連合会への食品ロス削減を依頼する等、ごみ減量の取組を実施した。</p> <p>●龍ヶ崎市自立・分散型エネルギー設備促進事業 太陽光発電システム等に関する補助金が終了となり、令和元年度から家庭用燃料電池システム(エネファーム)及び定置用リチウムイオン蓄電システムの設置費用の補助制度を開始した。引き続き、自然エネルギーの利用促進を図るとともに、その普及状況を注視しつつ、自然エネルギーの一層の利用促進を進めるための取組を行った。</p> <p>●その他の事業 牛久沼等の水質浄化促進対策、小中学校へのLED照明の整備など</p>					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	ごみ収集サービスや資源リサイクルに満足している市民の割合(%)	76.2 (H28)	-	77.8	-		81
②	地域をきれいにする活動や公衆衛生に満足している市民の割合(%)	57 (H28)	-	55.6	-		62
③	市民一人が1日に出すごみの量(家庭系ごみ)(g)	665	658.1	658.7	670		620
④	ごみの総資源化率(%)	13.5	13.1	13.5	13.5		20
⑤	★LEDを導入した主な公共施設数(施設)	12	33	36	39		29
進捗状況評価	現状分析	<p>●「市民一人が1日に出すごみの量」については、ベース値よりも増加し、また、目標値からもち離している。新型コロナウイルス感染症による外出自粛等の影響により、自宅で過ごす機会が大幅に増加したことが要因と考えられる。「ごみの総資源化率」については、ほぼ状況に変化がない。様々な普及啓発活動を展開しているが、現状では目標値の達成は難しい状況である。</p> <p>●LEDの普及については、公共施設への導入が進みつつあり、令和元年度には、中学校の体育館及び武道場への導入を完了し、目標値をクリアしている。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	新型コロナウイルス感染症による外的要因が大きく影響しているものの、ごみ減量については、目標値達成が厳しい状況であり、引き続きごみ減量化、循環型社会の形成に向け、さらなる有効な手法を検討するとともに、効果的な周知活動に取り組む。また、今後、レジ袋の有料化等の動きも注視しつつ、ごみ処理有料化についての調査・研究を行っていく。					

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略1】若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～
目標	【目標③】人口減少社会に対応したまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	既存市街地の魅力を高め、にぎわいや交流の拠点を形成することにより、交流人口の増加と転入促進・転出抑制を図ります。また、公共施設における縮充の取組や、交通ネットワークの充実などにより時間距離を短縮する多極ネットワーク型コンパクトシティを推進します。

2 各施策の進捗状況について

① 魅力ある都市拠点の形成

竜ヶ崎駅北地区を新都市拠点開発エリアと位置付け、高度な土地利用を目指すとともに、市の玄関口であるJR龍ヶ崎市駅を起点としたにぎわいの創出を図ります。また、中心市街地の活性化を図るため、「まちなか再生」を推進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.44～46】	<p>●JR常磐線龍ヶ崎市駅を起点としたにぎわいの創出 令和2年3月14日にJR常磐線佐貫駅が龍ヶ崎市駅へと改称された。改称と併せ、市の認知度向上やPRのため、市内向けには市広報紙への連載コラム「佐貫駅ストーリー」の掲載等により機運醸成を図り、市外向けにはアニメ作品とコラボレーションしたイメージアップポスターをJR常磐線龍ヶ崎市駅以南の主要駅(取手・我孫子・柏・新松戸・北千住)に掲出した。また、市・JR・関東鉄道の三者によるイベント開催を目指して、協議組織を立ち上げ、各種イベント等の調整を行った(イベントについては、新型コロナウイルス感染症により全て中止)。</p> <p>●中心市街地の活性化の推進 中心市街地活性化のベースとなる計画である「龍ヶ崎市まちなか再生プラン」を策定した。</p> <p>●新都市拠点開発エリアの土地の高度利用 新都市拠点開発エリア(関東鉄道竜ヶ崎線竜ヶ崎駅北地区)の土地利用について参入意向のある事業者との意見交換を行った。</p>						
	重要業績評価指標(KPI)	ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	市の良いところ、好きなどころとして「活気とにぎわいがある」と回答した市民の割合(%)	0.4 (H28)	-	0.6	-		5
進捗状況評価	現状分析	<p>●JR常磐線龍ヶ崎市駅誕生やまちなか再生プランの策定では、事業実施の過程において、高校生や民間事業者、市民等との連携が図られており、よい関係性が構築された。</p> <p>●新都市拠点開発エリアの開発は、引き続き実施に向けた調整等が継続されている。</p> <p>●龍ヶ岡地区では、たつのこまちモールの進出し、にぎわいの定着化が図られてきている一方、北竜台地区では、大規模店舗の撤退等によるにぎわいの減衰がみられる。</p> <p>●「活気やにぎわいがあると回答した市民の割合」は、駅名改称に加え、新都市拠点開発やまちなか再生の事業化による指標値の上昇が期待される。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	新都市拠点開発エリア開発、JR常磐線龍ヶ崎市駅周辺のにぎわい創出、まちなか再生の取組は、いずれも市全体の活性化や関係人口の増加等に直結する施策であり、これを起爆剤とした新たな施策につなげていくためにも、実現等を目指した取組を推進していく。また、北竜台地区については、地域の活性化に対する取組を関係機関との連携の下、進めていく。					

② 公共施設の縮充等、既存ストックのマネジメント強化

公共施設の面積や施設コストを縮小・削減しつつも、施設機能は充実させていく「縮充」の視点の下、複合化・多機能化による総量削減など、既存ストックのマネジメント強化を図ることにより、次世代に利用価値の低い公共施設や財政負担を押し付けず、人口減少社会に対応した公共施設等の環境を確保します。また、市内交通ネットワークの充実などにより、都市機能について集約化・最適化を推進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.47】		●効果的、効率的な既存ストックのマネジメント方策の推進 公共施設再編成の第2期行動計画に基づき、公共施設マネジメントの進行管理を行った。また、個別施設計画策定に向けた計画案を策定した。また、取組の「見える化」を図るため、「公共施設の稼働状況」を公表し、高校生・大学生を主体としたワークショップ、当該ワークショップをベースとした市民フォーラムの開催等、市民の取組への理解度を深める活動を行った。					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	★公共施設再編成による施設数の減少・総量削減(施設)	82	82	83	83		77
②	★未利用市有地の有効活用件数(100㎡以上)(件)	47	49	52	58		52
③	乗合バス及び乗合タクシーの年間利用者数(人)	1,274,919	1,289,812	1,313,619	997,274		1,299,000
進捗状況評価	現状分析	<p>●公共施設再編成の第2期行動計画の推進に努めているところであるが、現時点では施設数減少には至っていない。一方で、取組の「見える化」を行う等、公共施設再編成に必要不可欠である市民の理解・協働を進める取組を積極的に実施しており、今後、共通理解に裏打ちされた結果として、施設数の減少につながることを期待される。</p> <p>●未利用市有地は、所有の必要性等を考慮しながら進めていった結果、6件の売り払いがなされ、有効活用件数を大きく伸ばすことができた。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	<p>公共施設の再編成は、引き続き施設機能を維持しながら、面積や施設コストを縮小・削減する「縮充」の視点を基本に、検討していく。その際、施設の広域利用や長寿命化、歳入の確保等、施設運営の持続可能性も考慮しながら、最適な活用方法について検討を行っていく。また、公共施設再編成には、市民の理解・協働が不可欠であることから、これらを醸成する取組も積極的に行っていく。</p>					

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略2】教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」
目標	【目標④】龍の子の生きる力を育むまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	児童生徒の「確かな学力」、「豊かな心」、「健康な体」とともに自主性や社会性を育む教育を推進することや、義務教育環境の更なる向上のための小中一貫教育の推進など、少子化や人口減少社会に対応した教育環境の整備を図ります。

2 各施策の進捗状況について

① 知・徳・体のバランスのとれた教育の推進

児童生徒一人ひとりが「確かな学力」、「豊かな心」、「健康な体」など、いわゆる「知・徳・体」をバランスよく兼ね備えるための教育を推進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.48～51】		<p>●ICT教育の推進 ICT教育の推進は、中学校でも教育用ICT機器(タブレット・電子黒板)を全校導入し、授業を展開している。また、GIGAスクール構想を念頭に、小中学校におけるICT整備計画を策定した。</p> <p>●英語教育の推進、外国語活動・外国語指導の充実 中学生の英語力強化のため、公益財団法人日本英語検定協会実施の実用英語検定試験への検定料助成を行った。また、外国語活動・指導は、AETを12人体制で、授業以外のスクールイングリッシュ等活動もあり、英語によるコミュニケーション体験活動が充実してきている。</p> <p>●部活動の活性化 中学校におけるスポーツ部の活性化を図るため、外部の専門家を指導者として派遣するスポーツ指導者派遣事業を行った。</p>					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	全国学力・学習状況調査の算数(図形・数量問題)・理科(生命・宇宙)の結果の県平均との比較(ポイント)	図形・数量A -1.8 図形・数量B -3.05 生命・宇宙 -3.35	図形・数量A -1.1 図形・数量B -0.9 生命・宇宙 -	図形・数量A -2.0 図形・数量B -1.35 生命・宇宙 -2.15	図形・数量 -3.1 生命・宇宙 -		図形・数量A +1 図形・数量B +1 生命・宇宙 +1
②	AETとの学習が楽しいと答えた児童生徒の割合(%)	児童90.2 生徒77.1	児童73.7 生徒83.6	児童90.9 生徒80.8	児童92.5 生徒80.6		児童95 生徒82
③	児童生徒1人当たりの学校図書館の利用回数(回)	児童46.2 生徒31.9	児童42.2 生徒33	児童40.7 生徒29.2	児童38.2 生徒26.2		児童50 生徒35
④	人が困っている時は進んで助けていると答えた児童生徒の割合(%)	児童79.2 生徒82.5 (H28)	児童83.0 生徒82.2	-	児童82.2 生徒80.2		児童84 生徒88
⑤	体力テスト総合評価でA又はBの児童生徒の割合(%)	児童 男46.69 女49.16 生徒 男49.36 女69.06	児童 男48.50 女47.60 生徒 男54.20 女69.40	児童 男49.40 女54.70 生徒 男49.50 女74.80	児童 男44.0 女51.2 生徒 男38.1 女69.7		児童男女 60以上 生徒男女 60以上
進捗状況評価	現状分析	<p>●全国学力・学習状況調査の結果は、県平均よりも低い状況が続いている。</p> <p>●「AETとの学習が楽しいと答えた児童生徒の割合」について、昨年度と同様、比較的高い割合の児童生徒が「楽しい」と感じており、目標値の達成が見えてきている。スクールイングリッシュ等、授業以外にもAETと接する時間が増加していることが要因と考えられる。</p> <p>●学校図書館の利用回数は、減少傾向に歯止めがかからず、現状で目標達成は難しい。スマートフォン等の普及が少なからず影響しているものと思われる。</p> <p>●体力テストの評価では、児童生徒ともに昨年度と比べて、A又はBの評価の割合が減少している。児童生徒の運動への経験の不足や正しい運動方法の理解が進んでいない等の要因が考えられる。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	ICTや英語教育等、社会動向やトレンド等を踏まえた部分への教育環境は、順調に整備できているものの、一方で、読書や運動等、教育の基礎的部分に関しての底上げも必要な状況となってきた。バランスのよい教育環境の整備が必要であり、引き続き、効果的な事業を検討・実施していく。					

② 自主性や社会性を育む教育環境の整備

児童生徒が楽しく学び、自主性や社会性を育むための教育環境の充実を図るとともに、義務教育である9年間を見据えた小中一貫教育を推進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.52～54】		<p>●小中一貫教育の推進、小中学校の適正規模適正配置の推進 小中一貫教育の実施に向けた「龍の子人づくり学習」のカリキュラムの策定を完了した。また、将来的な小中一貫教育の実施に関して、川原代小学校・駒馬台小学校の保護者との意見交換を行った。加えて、愛宕中学校・城南中学校の統合に向け、統合準備会を設立し、会議を開催し、協議を行った。</p> <p>●シティズンシップ教育の充実 児童生徒が自ら考え実施する、「みんなで考える特色ある学校づくり事業」や市内全中学校の生徒会役員間の意見交換や各中学校区単位での小中学生が意見交換を行う「龍の子フォーラム」を実施する等、児童生徒のシティズンシップの醸成に努めた。</p>					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	自分には良いところがあると答えた児童生徒の割合(%)	児童72.4 生徒60	児童76.6 生徒67	児童79.8 生徒71.1	児童74.6 生徒75.9		児童77 生徒65
②	みんなで何かをするのは楽しいと答えた児童生徒の割合(%)	児童91.1 生徒88.3	児童92.5 生徒87.3	児童91.1 生徒87.8	児童91.4 生徒89.2		児童92 生徒90
③	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると答えた児童生徒の割合(%)	児童63.2 生徒54.4	児童59.4 生徒51.5	児童64.9 生徒51.2	—		児童68 生徒59
進捗状況評価	現状分析	<p>●「自分には良いところがあると答えた児童生徒の割合」は、前年度と比べ、中学生の数値の大きな上昇がみられる(約5ポイント)。地域との活動や地域貢献に各学校が積極的に取り組み、他者との関係を構築する中で、自分を見つめることができる機会が増加してきていることが要因と考えられる。</p> <p>●「みんなで何かをするのは楽しいと答えた児童生徒の割合」は、前年度と比べ、上昇しており、特に中学生に顕著である。「龍の子人づくり学習」やシティズンシップ教育の充実により、他校の児童生徒とかがわりあう機会の創出が、数値の上昇につながっていると考えられる。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	施設一体型小中一貫校のモデル校設置に向け、引き続き、愛宕中学校と城南中学校の統合に向けての準備を進める。小中一貫教育の軸となる「龍の子人づくり学習」やシティズンシップの醸成による、「人間力」の向上を図り、地域社会の中で、自らが行動できるようになるよう、引き続き各事業を推進していく。					

③ 魅力があり、信頼される学校づくりの推進

地域の特性を活かした特徴的な教育活動を展開するなど、魅力ある学校づくりを推進します。また、学校情報の積極的な発言による、家庭や地域との連携強化、児童生徒の安全確保などにより、信頼される学校づくりを推進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.55～56】		● 教育の日推進事業の充実 「たつのごプロジェクト」と称し、児童生徒が企画・実行・提言のサイクル(3か年)で自ら考え、様々な地域貢献活動を実施した。また、これらの地域貢献活動をベースに、教育の日推進事業の主要事業として、令和元年11月に文化会館大ホールにおいて、市内の中学生のみならず、高校生も参加して、地域貢献活動についての報告及びパネルディスカッションを行う「たつのご未来トーク」を実施した。 ● 児童生徒の安全確保 流通経済大学の学生の協力を受け、教職員向けの救命講習会を開催した。また、小中学校での災害時の安全確保・対応を訓練するため、避難訓練や保護者への引き渡し訓練、地域コミュニティとの連携による防災訓練を行い、有事に的確な対応がとれる体制整備を図った。					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	地域ボランティア等活用校及び延べ人数(上段:校、下段:人)	13 3,286	17 2,975	17 3,151	17 4,024		17 4,000
②	教育の日推進事業における小中学校等の自由参観者数(人)	13,114	9,175	10,864	14,570		18,000
③	★救急救命講習を修了した教職員の割合(%)	60	76	74	71		80
④	防災訓練の参加者数(人)	9,559	16,226	18,787	26,785		10,500
進捗状況評価	現状分析	●地域ボランティア等の活用については、「龍の子人づくり学習」と連動し、地域人材を活用した取組を各校が進めたことで、数値が上昇し、目標値を達成できている。 ●教育の日推進事業については、小中学生だけでなく、市内の高校生との連携を図ることや、教育委員会内だけでなく、市全体としての連携した取組を行ったことで、事業全体の魅力度も向上し、参観者数の増加につながっていると考えられる。 ●「防災訓練の参加者数」は、ベース値・前年度と比較しても大きく増えており、目標達成をしている。各校と地域の合同防災訓練が定着してきており、防災意識が高まってきていると思われる。					
	進捗状況	■順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	教育の日推進事業については、今年度実施によって構築した高校生等との関係性や市内の連携体制を今後も維持しつつ、今年度よりもさらに魅力的な取組となるように進めていく。また、「龍の子人づくり学習」を軸とした地域と学校との連携を引き続き強化し、よりよい学校運営ができるよう努めていく。					

④ 一人ひとりの心に寄り添う教育の推進

教育センターを中心に学校不適應などの問題への対応のため、児童生徒や保護者の支援体制の充実を図り、一人ひとりの心に寄り添う教育を推進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.57～58】		●インクルーシブ教育の推進 特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に対して、就学相談などによる適切な支援(合理的配慮)を行った。また、各小中学校の管理職と特別支援教育コーディネーターを対象に研修会を開催するとともに、研修講座も開催するなど、校内の教育支援体制の強化を図った。 ●教育支援体制の充実 広報紙「りゅうほー」への掲載や全家庭にリーフレットを配布するなどにより、龍の子支援システム(相談窓口等に関する組織横断的な取組)の周知を図った。					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	あなたの気持ちをよく分かろうとしてくれる友人がいると答えた児童生徒の割合(%)	児童77.1 生徒76.6	児童78.9 生徒78.7	児童77.9 生徒77.6	児童82.3 生徒81.8		児童80 生徒80
②	児童生徒の不登校解消率(%)	児童34.6 生徒16	児童29 生徒30	児童28.5 生徒14.4	児童27.3 生徒15.9		児童40 生徒20
③	夢ひろば通級生の学校復帰率(%)	100	100	94	91		100
進捗状況評価	現状分析	●インクルーシブ教育や教育支援については、多種多様な相談に応じるための体制が整備されている。特に、龍の子支援システムでは、教育相談員の配置や適応指導教室での指導、さわやか相談員の配置等により支援体制が構築されている。 ●「あなたの気持ちをよく分かろうとしてくれる友人がいる」と答えた割合は、前年度と比べ、上昇し、目標値を達成した。「龍の子づくり学習」の展開等による他者との関係性の構築が徐々に成果を上げてきたものと思われる。一方、「不登校解消率」や「学校復帰率」は、変化がない又は減少傾向にある。様々な原因・要因が複雑に絡み合う事例が増加しており、解決が難しくなっているが、現場では様々な取組を行い解決するよう努力をし続けている。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	年々特別支援学級が新設・増設されており、特別な教育的配慮が必要な児童生徒への支援は重要性を増している。インクルーシブ教育については、特別支援担当教諭だけではなく、全ての教職員に合理的配慮を意識した教育のあり方を推進する。教育支援体制については、各小中学校及び関係機関との連携により未然防止や早期解消の取組を継続していく。					

⑤ 学びを支える教育環境の整備

計画的な学校施設等の整備・改修や就学に関する経済的支援など、学びを支える教育環境の整備を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.59～62】		●生活困窮世帯の子どもの学習支援事業、生活困窮世帯の子どもの居場所づくり支援事業 NPO法人が実施する、生活困窮世帯の子どもへの学習支援(無料塾)や居場所づくり(子ども食堂)への支援を行った。また、NPO法人が実施するクラウドファンディングを活用した子どもへの宅配食の提供について、事業設計等の助言や支援等を行った。 ●龍ヶ崎市学校給食センター整備事業 新学校給食センターの建設に向け、建設用地の確保を完了し、基本計画の修正等の業務を行った。 ●その他の事業 就学援助の支給など					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	学校に行くのが楽しいと答えた児童生徒の割合(%)	児童78.8 生徒79.2	児童88.4 生徒86.0	児童90.4 生徒88.0	児童87.6 生徒85.8		児童85 生徒85
②	児童生徒一人当たりの給食食べ残し量(g)	児童36.9 生徒42.6	児童32.1 生徒43.6	児童30.7 生徒42.1	児童30.5 生徒43.5		児童35 生徒40
③	★学校施設の長寿命化計画(個別施設計画)の策定率(%)	—	—	—	—		100
進捗状況評価	現状分析	●「学校に行くのが楽しいと答えた児童生徒の割合」は、昨年度に比べ減少しているものの、目標値に達している。ハード面を含め、学びを支える環境の充実が図られてきていることが要因の一つであると思われる。 ●「生徒一人当たりの給食食べ残し量」は、児童は目標をクリアしているものの、生徒は前年度・ベース値と比較しても、数値が悪化している。食の大切さについて、給食訪問等により児童生徒達の理解を深めているが、さらに理解を促進していく必要がある。 ●「学校施設の長寿命化計画の策定率」は、令和元年度策定予定であったが、令和2年度へ延期となっているので、当該年度中に完了予定である。					
	進捗状況	■順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	生活困窮世帯の児童生徒の学習支援や居場所づくり等、引き続きNPO法人等との連携を強化し、児童生徒一人一人が均等に学ぶことができる教育環境の整備を推進していく。また、新学校給食センターの整備を含め、効果的・効率的な学校施設の環境整備を、ハード・ソフト両面から進めていく。					

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略2】教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」
目標	【目標⑤】子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	家庭教育の充実に向けて支援するとともに、家庭、地域、学校などが連携を図り、子どもたちが安全・安心な環境と地域のつながりの中で健やかに成長し、自立心が育まれるようなまちづくりを進めます。また、生涯にわたる人格形成の基礎となる幼児教育の充実にも取り組みます。

2 各施策の進捗状況について

① 家庭の教育力の向上

子どもの健やかな成長に必要な家庭教育の充実のため、各種セミナーや相談体制の充実を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.63～65】		<p>●各種セミナーの開催 子どもを持つ親たちの学習や交流の場として、子育てふれあいセミナーを開催した。</p> <p>●地域の子育て支援拠点の充実 民間の子育て支援センター5か所については、運営費補助金を交付し、支援を行った。</p> <p>●相談体制の充実 家庭教育指導員を中心に、子育て支援会議等の関係機関(小中学校、教育センター、こども家庭課)等と情報を共有し、連携を図りながら、家庭環境や子育てに関する悩みなどの相談に積極的に対応した。</p>					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	子育てふれあいセミナーの延べ参加者数(人)	805	771	730	783		1,000
②	毎日、同じくらいの時間に寝ていると答えた児童生徒の割合(%)	児童 79.8 生徒 73.4	児童 82.1 生徒 74.6	児童 77.9 生徒 71.8	児童 77.5 生徒 78.7		児童 85 生徒 78
③	平日に家で1時間以上勉強をしていると答えた児童生徒の割合(%)	児童 51.8 生徒 65.1	児童 62.2 生徒 67.9	児童 66.7 生徒 62.8	児童 60.2 生徒 65.2		児童 57 生徒 70
④	★地域子育て支援センターの設置数(か所)	7	8	7	7		9
進捗状況評価	現状分析	<p>●小学校低学年の保護者を対象とした「子育てふれあいセミナーの延べ参加者数」は、前年度と比べ増加したものの、目標達成は厳しい状況にある。保護者の就労環境の変化が要因の一つと思われる。</p> <p>●「毎日、同じくらいの時間に寝ていると答えた児童生徒の割合」、「平日に家で1時間以上勉強をしていると答えた児童生徒の割合」は、この間の推移を見ても大きな変化はない。社会情勢等による保護者の家庭での教育に対する考え方が多様化しており、数値の上昇が難しいことも一つの要因と思われる。</p> <p>●「地域子育て支援センターの設置数」は、昨年度と比べ変化はない。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	子育てふれあいセミナーに代表されるような家庭での教育力の向上への施策は、保護者を含めた家庭のあり方の多様化等に起因して、効果の発揮が困難な状況も見受けられる。こども家庭総合支援室も新設されたため、このような取組との連携も検討しつつ、保護者に対して家庭教育の重要性が理解できるような機会の創出が必要である。また、子育て支援拠点の充実に向けては、国の制度を活用しながら相談・情報提供等の支援の充実を図るとともに、引き続き地域子育て支援センターが未設置の保育施設等に対し、設置の働きかけを行っていく。					

② 幼児教育の充実

人格形成において重要な時期である幼児期に注目し、幼稚園・保育園(所)・認定こども園の支援や幼・保・小の連携などのほか、幼児教育の充実を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.66～67】		● 幼稚園・保育園(所)・認定こども園と小学校の連携 幼児期教育と義務教育の円滑な接続を推進するため、幼児と児童、又は職員間の交流事業を実施し、関係機関で「保幼小連携協議会」を開催する等、幼児教育施設と小学校が相互に協力しあえる関係の強化を図った。 ● 子どもの読書活動の推進 中央図書館司書による小学校や保育ルームへの出前講座やおはなし会等のイベントを実施するとともに、新規の取組として小学生向けのプログラミング講座を開催した。					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	幼児との交流事業を行った小学校の割合(%)	58.3	64	100	100		90
②	幼児期の教育と小学校教育の連携・接続を行った割合(%)	83.3	100	100	100		100
③	幼稚園・保育園(所)・認定こども園職員の専門研修に派遣を行った施設の割合(%)	94.4	100	100	95		100
④	幼児(0～5歳)一人当たりの絵本・紙芝居貸出冊数(冊)	17.2	17.6	20	20		19
⑤	図書館の子ども向け講座・イベントの延べ参加者数(人)	706	1,875	2,271	1,728		780
進捗状況評価	現状分析	●「幼児との交流事業を行った小学生の割合」や「幼児期の教育と小学校教育の連携・接続を行った割合」は、全ての100%となっており、目標値も達成している。園児と児童、職員間の交流会や、合同での協議会等、積極的な保幼小連携体制ができている。 ●「幼児(0～5歳)一人当たりの絵本・紙芝居貸出冊数」は、目標値を達成しており、児童コーナーや親子を対象としたイベントの開催等、利用しやすい・行きたいと思わせる環境整備が効果を上げていることが要因と考えられる。 ●「図書館の子ども向け講座・イベントの延べ参加者数」は、前年度に比べ減少しているものの、中央図書館の工事による休館や新型コロナウイルス感染症に伴う閉館等の外的要因によるものであり、ベース値・目標値と比べ大きく上回っている状況である。					
	進捗状況	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	幼児教育と小学校教育の連携については、引き続き、小1プロブレムの解消や小中一貫教育に向けての課題も把握しながら、計画的に実施していく。また、子ども読書活動の推進は、利用者のニーズを的確に把握しながら、より子どもが来やすい図書館となるよう、環境の整備やイベント等の開催等を実施していく。					

③ 子どもが健全に育つ環境の整備

学童保育などによる安全・安心な居場所づくり、学習支援事業など、子どもが健全に育つ環境の整備を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.68～69】		● 学童保育ルームの充実【再掲】 令和2年4月から学童保育ルームの民間事業者への委託を進める準備を行い、効果的で安定的なサービスが提供できることとなった。 ● 多様な学習機会の提供【再掲】 小学校3年生から6年生までを対象に、民間ノウハウを活かしながら、アフタースクールは8校で、サタデースクールは3校で実施した。					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	学童保育ルームの待機児童数(人)	0	0	0	0		0
②	アフタースクール又はサタデースクールを実施した小中学校及び延べ参加者数(上段:学校数、下段:参加人数)	4 736	11 4,576	11 4,333	11 3,127		17 1,500
進捗状況評価	現状分析	●「学童保育ルームの待機児童数」は、0を維持し、子育てと仕事の両立できる職場環境への満足度も上昇している。 ●アフタースクール・サタデースクールは、全小学校において実施しており、参加者数もベース値から大幅に増加し、目標値をクリアしている。					
	進捗状況	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	学童保育ルームは、民間への委託を開始し、業務の効率化と併せ、十分なサービスが維持できるよう、今後も留意しながら取り組んでいく。また、アフタースクール・サタデースクール等、児童生徒の学習機会の確保に引き続き努めつつ、多様な学習機会という面からは、部活動や習い事等への支援も含め、子どもの健全育成等を図るよう取り組んでいく。					

④ 子どもの交流と活動の促進

子どもたちが地域住民などとの様々な交流を通じて、自立心を養い、健やかに成長できるよう、家庭、地域、学校などとの連携強化を促進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.70～71】		<p>●子どもの交流・活動拠点の充実 たつのこやま管理棟において、NPO法人、ボランティア等による「子どもの居場所づくり事業」を展開し、子どもの遊び場の提供を行った。また、遊びの拠点づくり事業として、たつのこプレイパーク「たつのこ遊んじゃ王」を1回開催(その他、1回は新型コロナウイルス感染症に伴い中止)した。</p> <p>●子どもの地域活動への参加促進 青少年育成龍ヶ崎市民会議と連携し、小中学校を通じて児童生徒に「まちづくりポイント制度」の周知を行い、市内一斉清掃等への参加を呼びかけ、参加した児童生徒には、学校を通じてまちづくりポイントシールを配布した。また、各小学校において、青少年育成龍ヶ崎市民会議、青少年相談員等と共に「あいさつ・声かけ運動」を実施した。</p>					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	たつのこやま管理棟(子どもの居場所)の延べ利用者数(人)	18,937	17,402	20,166	18,934		20,000
②	★市子ども会育成連合会の児童の加入率(%)	39.3	33	30	30		40
③	地域社会などでボランティア活動に参加したことがあると答えた児童生徒の割合(%)	児童65.3 生徒68.7 (H28)	児童49.5 生徒56.9	児童52.8 生徒54.6	—		児童71 生徒74
④	成人式典の参加率(%)	73.8	74.9	76.8	75		78
進捗状況評価	現状分析	<p>●「たつのこやま管理棟(子どもの居場所)の延べ利用者数」は、前年度と比べ減少している。新型コロナウイルス感染症による外出自粛等の影響が一つの要因となっている。隣接地での大型店舗の開業もあり、通常であれば、数値の上昇も期待できる。</p> <p>●「市子ども会育成連合会の児童の加入率」は、年々減少しており、目標値の達成は厳しい状況が継続している。子どもの放課後や休日の過ごし方が多様化等が要因と思われる。</p> <p>●「ボランティア活動に参加したことがある児童生徒の割合」は、地域社会等において、児童生徒自らの発案・意思による行動が伴うことで、数値の上昇が見込めるものと思われる。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	<p>引き続き子どもの地域社会における各種活動を推進し、地域と連携強化を進めることはもちろん、子どもの生活スタイルの多様性やニーズの分析・検証等も行いながら、より子どもが活動しやすい事業としていく。子どもの居場所づくりは、市の類似イベントとの連携開催等、市内の横の連携を強化し、事業の効率化を図りながら、新たな形を検討していく。</p>					

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略2】教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」
目標	【目標⑥】生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	各年齢に対応した生涯学習環境を充実させるとともに、文化芸術に親しむ機会の充実と文化芸術活動の促進を図ります。また、文化財の保存・活用を進め次世代に引き継ぐとともに、地域に対する自信や誇りの醸成を図ります。さらに、生涯を通じてスポーツに親しめる環境を整備します。

2 各施策の進捗状況について

① 生涯学習環境の充実と人権教育・啓発の推進

各種講座、体験教室などを実施し、幅広い年齢層に学習機会を提供するとともに、中央図書館を中心に市民が読書に親しむことができる環境を整えます。また、人権に関する理解を深めるための人権教育・啓発を推進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.72~73】	<p>●第九コンサート 市民が中心となって実行委員会を組織し、令和元年12月に文化会館大ホールで第九コンサートを実施した。1,126人の来場者があり、市民の手による運営が進められた。また、コンサート後には、開催風景の写真展を開催する等、コンサートで得られた関係性・協働性を十分に発揮し、継続的な活動を行うことができた。</p> <p>●人権啓発活動の充実 人権啓発に係るパネル展を市役所1階ホールで実施した。来場者に分かりやすい内容とするため、「人権まんがパネル」を21点展示し、啓発に努めた。また、人権啓発のチラシを配置・配布した。</p>						
	重要業績評価指標(KPI)	ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	人材バンクを活用した生涯学習講座・教室開催数(講座・教室)	3	4	3	0		5
②	市民大学講座の延べ参加者数(人)	113	625	661	580		160
③	中央図書館の延べ入館者数(人)	204,595	184,408	181,022	161,117		226,000
④	中央図書館の利用者の満足度(%)	82.3	82.9	84.9	83.6		85
⑤	人権教室の開催数(回)	2	1	1	1		4
進捗状況評価	現状分析	<p>●生涯学習講座や教室における講師は、専門家や大学教授、企業との連携による講師等、幅広い人材への依頼を行うようにしているものの、一方で、「人材バンクを活用した生涯学習講座・教室開設数」は、今年度は該当案件がなかった。人材バンクの活用方法や活用シーンの明確化がなされていないのが要因の一つである。</p> <p>●「中央図書館の入館者数」や「利用者の満足度」は、前年度と比較して減少しているが、図書館の工事による休館や新型コロナウイルス感染症に伴う閉館等の外的要因が大きく影響を与えているものと考えられる。</p> <p>●「人権教室の開催数」は、ベース値より低く、目標値に達成するのが困難な状況である。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	人材バンクの活用状況を踏まえ、活用方法等の再検討が必要である。社会の動きや他の事例等を参考にしながら、従来の講座形式以外の方法も検討の上、人材バンクを最大限活用できるように進めていく。また、引き続き読書学習環境の充実や人権啓発については、現状を分析しながら、取組を進めていく。					

② 文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実

多様な文化財の保存を図るとともに、市民が文化財に触れ、学び、理解する機会の充実を図ります。また、地域に根付いた文化芸術の継承と新たな文化芸術活動の振興を図り、市民の主体的な文化芸術活動を促進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.74～75】		●市民遺産の認定 「旧竹内農場赤レンガ西洋館及び竹内家文書」について、市民遺産として認定した結果、延べ認定件数が13件となった。 ●歴史的資源などの活用 前年度に引き続き、国指定重要文化財「絹本著色十六羅漢像」のレプリカを作成し、公開展示を開催した。また、「旧竹内農場赤レンガ西洋館」の一般公開に向けた環境整備(伐開作業・フェンスの設置・説明板の設置・駐車場の整備等)を行った。加えて、市の歴史的・文化的資源を活用するために庁内の連携組織を立ち上げ、意見交換等を行った。					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	★市指定文化財の指定数(件)	17	19	19	19		20
②	★市民遺産の認定数(件)	6	11	12	13		12
③	指定文化財又は市民遺産等を活用したイベント件数(件)	2	1	3	2		5
④	文化芸術フェスティバルの延べ来場者数(人)	23,151	20,989	21,993	21,866		26,700
進捗状況評価	現状分析	●「市指定文化財の指定数」や「市民遺産の認定数」は、目標値に達する水準で推移している。市指定文化財及び市民遺産の指定・認定や文化財等の歴史的資料の保存・保護に関して積極的な取組がなされていることが要因であると考えられる。 ●「指定文化財又は市民遺産等を活用したイベント件数」は、2件の開催にとどまっている。新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、参加者数やイベント数を増加させるためにも、幅広い層に向けたイベント等の企画が必要となっている。 ●「文化芸術フェスティバルの延べ来場者数」は、大きな変化はなく、現状では目標達成は難しい状況にある。催事を増やしてはいるものの、目標値とは大きく乖離している。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	引き続き、文化財等の候補物件の掘り起こし等を行い、文化財指定を通して保全・活用を図るとともに、市民遺産についても制度の推進を図る。また、市内にある文化財や市民遺産等の歴史的資源の活用にも、引き続き一体的に取り組み、文化財への興味を高めつつ、市の魅力発信や、シビックプライドの醸成につなげることができるイベント等を開催していく。文化芸術活動の推進に当たっては、文化協会加盟団体ほか、市民が行う活動の掘り起こしを積極的に進め、支援をする等、市民への広がり意識した施策に取り組んでいく。					

③ スポーツ環境の充実

総合運動公園施設の充実や流通経済大学などとの連携により、市民誰もが身近でスポーツに親しめる場や機会の充実を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.76】		●流通経済大学運動部との連携 運動部応援バスツアー開催や野球、サッカー、ラグビー、陸上競技の公式戦が市内で開催される時の施設の優先利用、公式戦開催の周知・PRや集中応援日の告知等により、市民と大学運動部との交流促進に努めた。また、世界で活躍する流通経済大学卒業生の応援活動を実施し、ラグビー日本代表の中島イシレリ選手の市への表敬訪問では、歓迎セレモニー等を開催し、その様子を広く市民に周知し、市役所・たつのこアリーナで、同選手のサイン入りボールやユニフォームの展示を行う等、市民がスポーツを身近に感じられる取組を実施した。					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	たつのこアリーナ(メインアリーナ)の稼働率(%)	89	87.7	86	86		90
②	たつのこフィールドの稼働率(%)	61.9	60	63	58		67
③	たつのこスタジアムの稼働率(%)	31.8	42	40	33		37
④	総合運動公園における流通経済大学運動部公式戦の開催数(試合)	39	38	41	39		40
⑤	流通経済大学運動部公式戦応援ツアーの延べ参加者数(人)	58	35	74	49		80
進捗状況評価	現状分析	●「たつのこアリーナ・フィールド・スタジアムの稼働率」は、前年度と比べ、同程度又は減少傾向にあり、目標数値前後で推移している。国民体育大会開催に伴う一般利用の制限や新型コロナウイルス感染症に伴う閉館等の外的要因が大きく影響していると考えられる。 ●「総合運動公園における流通経済大学運動部の公式戦の開催数」も、上記同様の外的要因が大きく影響し、前年度に比べ、減少している。 ●「運動部公式戦応援ツアー延べ参加者数」は、全国大会やリーグ戦の決勝等、市民の関心の高い試合を選択し、実施しているものの、平日夜間等になる場合がある等、参加者数が伸びなかった。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	国民体育大会や新型コロナウイルス感染症の影響による一般利用の減少は見られるものの、通常であれば、各スポーツ施設の利用は増加傾向にあるものと判断できる。今後も市民ニーズを見極めるとともに、費用対効果も検証しながら、「する・みる・ささえる！」それぞれの観点からスポーツ環境の向上に努めていく。また、流通経済大学運動部との連携については、引き続き更なる強化を進めていくとともに、ツアー開催に当たっては、魅力的な内容となるよう検討をしていく。					

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略3】地域活性化「まちの活性化と認知度向上」
目標	【目標⑦】市民活動日本一【重点目標】
基本的方向性 (抜粋)	市民一人ひとりがまちづくりの担い手として意識を持って行動し、活発な市民活動によりまちが活性化していく市民活動日本一のまちを目指して、「公共を皆で担う」気運の醸成を図るとともに、市民協働のまちづくりに取り組んでいきます。

2 各施策の進捗状況について

① 協働の取組によるまちづくりの推進

住民自治組織、NPO法人をはじめ、市民活動団体などとの連携を図り、幅広い分野での協働の取組を推進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.77~78】		<p>●協働事業提案制度の推進 提案募集の結果、市民提案型協働事業「たつのこ山美観創出事業」の1件を採択した。また、平成30年度の行政提案型協働事業で採択された「休耕地を活用したひまわり迷路づくり&ひまわり油づくり」が実施され、迷路には約1,500人の来場があり、その後、「食と農のアンバサダー」との連携により、ひまわり油を使った料理レシピの開発を行った。</p> <p>●公共施設里親制度の推進 機会をとらえ、各団体への積極的な参加呼び掛けや、公式ホームページ等での周知、参加募集を継続して行い、参加団体の増加を図った。</p>					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	協働事業への提案件数(件)	4	4	4	1		4
②	★公共施設里親制度の登録団体数(団体)	83	90	88	94		91
進捗状況評価	現状分析	<p>●「協働事業への提案件数」については、前年度に比べ、大きく減少した。提案の前段階として、市の持つ行政課題とのマッチングがされないものや行政側の受入態勢が不十分なものが多く、提案につなげることができない状況である。</p> <p>●「公共施設里親制度の登録団体数」は、前年度に比べ増加し、目標値を達成した。登録団体会員の高齢化や後継者不足により、担い手不足が懸念されるが、来庁者への個別の案内等、制度の周知徹底等による効果が出ていると考えられる。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	協働事業提案については、事業開始から一定期間が経過し、状況の変化に応じた見直しが必要となっている。また、里親制度についても既存の登録団体において高齢化や後継者不足が懸念されており、今後対応策を講じていく必要がある。					

② 自主的で活発な市民活動の促進

幅広い分野で活発な市民活動が展開されるよう、支援策の充実を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.79～81】		<p>●市民活動の支援と啓発 市民活動センターや市民交流プラザを中心に、団体間の交流会や各種イベント、講座を開催するなど活動の場や情報の提供を図り、市民活動の支援に努めた。また、市民活動ステップアップ補助金の交付は、相談はあったものの、0件であった。</p> <p>●まちづくり・つなぐネットの推進 事業所や学校等15団体が協力団体となり、地域におけるイベントの運営補助や防犯パトロール、環境美化活動など、多彩なサポート活動を展開した。</p> <p>●まちづくりポイント制度の推進 多様な周知活動やポイント交換メニューの見直しを行い、制度の周知、活用推進を図ったが、交換・寄附枚数は前年度を下回った。</p>					
重要業績評価指標 (KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	市民活動やボランティア活動に参加したことがある市民の割合(%)	69.1 (H28)	-	74.7	-		74
②	市民活動ステップアップ補助金の交付件数(件)	3	0	1	0		3
③	市民活動センターの延べ利用者数(人)	22,071	23,692	25,376	24,551		23,000
④	まちづくり・つなぐネットの実施回数(回)	4	34	36	32		7
⑤	まちづくりポイントシールの交換・寄附枚数(枚)	6,262	21,193	25,248	22,655		8,000
進捗状況評価	現状分析	<p>●「市民活動ステップアップ補助金の交付件数」は、対象となる社会貢献活動を主体に活動する団体自体が少なく、交付要件に該当しないケースが多いことから0件となっている。</p> <p>●「市民活動センターの延べ利用者数」は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年度と比べ減少しているものの、ベース値と比べ上昇傾向にあり、目標値も達成している。</p> <p>●「まちづくり・つなぐネット」や「まちづくりポイント制度」は、市民に定着しつつあり、ベース値と比べ、大きく上回っている状況が継続している。</p>					
	進捗状況	<p>■順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある</p> <p><input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある</p>					
	今後の施策・事業展開の方向性	市民活動をより身近なものとして定着・継続させていくためには、特定の市民の参加だけでなく、これまで興味のなかった市民をも巻き込み、行動へと意識を変容させていくことが重要である。特に、若者・現役世代が「意味のあるもの」として市民活動に積極的に参加できているような施策を展開していく必要がある。これまでの「市民活動日本一」を目指した取組を総括しつつ、新たな展開や方策を検討する。					

③ 市民と行政の情報共有などを目指した情報発信力の強化

市民と行政が情報や問題意識の共有を図るため、行政情報や市民が必要とする情報を様々な媒体を通して積極的に発信します。また、分かりやすく親しみやすい内容となるよう努めます。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.82】		●情報発信機能の充実 市公式ホームページや広報紙「りゅうほー」の運用・制作をはじめ、メール配信サービスや市政情報モニター、デジタルサイネージ、SNS等、様々な媒体を活用した情報発信機能の充実に努めた。特に、近年の市民ニーズを踏まえ、通常時を含め、緊急災害時等の情報接触方法の拡大を意図し、令和2年2月から市公式LINEを開設した。令和2年3月末現在で1,800人を超える登録がされている。					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	市役所から発信される情報のうち、必要とする情報は得られていると感じている市民の割合(%)	68.9 (H28)	—	58.6	—		74
②	★メール配信サービスの登録者数(人)	9,670	11,018	11,487	12,468		11,600
③	★フェイスブック「いいね！」の数(人)	1,279	1,786	1,910	2,050		2,500
④	市公式ホームページの年間アクセス件数(件)	1,304,499	1,142,963	1,214,086	1,543,777		1,565,000
進捗状況評価	現状分析	●「必要とする情報は得られていると感じている市民の割合」は、市公式LINEの開設等、市民のニーズに沿った情報媒体を増やす等の取組により、数値の上昇が見込める。 ●「市公式HP年間アクセス件数」は、新型コロナウイルス感染症の影響で、情報を必要とする市民等の増加に伴い、前年度との比較で大きく増加している。 ●その他の指標についても、ベース値及び前年度を上回り、目標達成又は目標達成が可能な水準で推移している。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗が遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗が遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	一般の緊急時下においては、市民の情報収集傾向の高まりにより、情報接触度が高まってきている。これらの状況を踏まえると、市民が「必要とする・欲している」情報を、「適時的確」な手段により発信する必要がある。既存の情報媒体の運用も含め、その効果を測定・分析しながら、引き続き効果的な情報発信の強化を図っていく。					

④ 市民参加のまちづくりの推進

市民がまちづくりに関し、意見・提案ができる機会の充実を図り、まちづくりへの市民の参加を促進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.83】		●市民参加の機会の充実 市の主要施策に関する市長との意見交換会や地域における懇談会の開催、かたらい広場等、直接市長と意見交換を行う機会を確保するとともに、インターネット市政モニターや市長への手紙、パブリックコメント等、意見・提案ができる機会の充実に努めた。					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	まちづくりへ気軽に参加できる機会に満足している市民の割合(%)	23 (H28)	—	24.9	—		28
進捗状況評価	現状分析	●「まちづくりへ気軽に参加できる機会に満足している市民の割合」は、市長と地域との懇談会やかたらい広場等を継続的かつ着実に実施しているが、幅広い年齢層の市民参加を促す取組が必要となってきている。 ●意見・提案ができる機会の増加に伴い、一部に不適切な意見を提出する方等への対応に苦慮するケースも増加している。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗が遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗が遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	市民からの意見聴取の機会を充実させていくため、現行の仕組みの継続をベースに、時代の変化やニーズに応じて見直しを検討する等、さらなる満足度を向上させる取組を推進する。その中でも、インターネット市政モニター等、市民が比較的参加しやすいものは、より多くの市民に参加してもらえるよう、取組を検討していく。					

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略3】地域活性化「まちの活性化と認知度向上」
目標	【目標⑧】地域の潜在力を活かした仕事とにぎわいを創出するまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	企業立地促進や起業・創業支援などを通じた地域経済の活性化と雇用創出により、若者の転出抑制、UIターン促進を図ります。また、女性やアクティブシニアの活躍が期待されることから、スキルアップ支援や活躍・雇用の場の創出を図ります。

2 各施策の進捗状況について

① 産業、金融、行政の連携による地域産業の維持・強化

金融機関などと連携しながら、既存企業を支援するとともに、企業立地促進と起業・創業に対する支援の充実を図ります。また、本市の地域資源を活用したにぎわいと交流の場として、牛久沼沿いに道の駅を整備するほか、産業・金融との連携による事業展開などにより、地域経済の活性化を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.84～88】	<p>●龍ヶ崎産品の販路拡大 観光物産協会の新ブランド「プティアクーユ龍ヶ崎」の周知等を行った。また、たつのご産直市場の農産物等について、インスタグラム及びレシピ投稿サイト「クックパッド」に新規にアカウントを開設し、農産物等の紹介や当該農産物等を使ったレシピの紹介等を行い、市役所正面玄関前等での出張販売を行う等、農産物等の販路拡大に資する事業を実施した。</p> <p>●起業・創業の支援 創業スクールや社長塾、ビジネスコンテストの開催等、取手市との連携を図りながら「起業家タウンMatch広域連携事業」を展開するとともに、創業促進補助金による支援を行った。</p> <p>●つくばの里工業団地拡張事業 つくばの里工業団地拡張事業に係る造成工事を完了するとともに、拡張エリアの市街化区域編入及び用途変更等の茨城県との協議を開始した。</p> <p>●その他の事業 道の駅整備の推進、企業立地促進奨励金、中小企業事業資金あつ旋制度、展示会等出展支援事業補助金の交付など</p>																																															
	<p>重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ベース値 (H27)</th> <th>H29実績</th> <th>H30実績</th> <th>R元実績</th> <th>R2実績</th> <th>目標値 (R3)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 企業立地奨励金による支援企業数(社)</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>② 新規雇用人数(企業立地奨励金実績)(人)</td> <td>12</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td></td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>③ ★創業者数(件)</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>12</td> <td></td> <td>20 (H29～33)</td> </tr> <tr> <td>④ ★観光物産協会がブランド認定(推奨)する企業数(社)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>7</td> <td></td> <td>5 (H29～33)</td> </tr> <tr> <td>⑤ 年間道の駅入込客数(人)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>500,000</td> </tr> </tbody> </table>								ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)	① 企業立地奨励金による支援企業数(社)	6	2	1	1		10	② 新規雇用人数(企業立地奨励金実績)(人)	12	0	3	0		50	③ ★創業者数(件)	-	1	7	12		20 (H29～33)	④ ★観光物産協会がブランド認定(推奨)する企業数(社)	-	-	5	7		5 (H29～33)	⑤ 年間道の駅入込客数(人)	-	-	-	-	
	ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)																																										
① 企業立地奨励金による支援企業数(社)	6	2	1	1		10																																										
② 新規雇用人数(企業立地奨励金実績)(人)	12	0	3	0		50																																										
③ ★創業者数(件)	-	1	7	12		20 (H29～33)																																										
④ ★観光物産協会がブランド認定(推奨)する企業数(社)	-	-	5	7		5 (H29～33)																																										
⑤ 年間道の駅入込客数(人)	-	-	-	-		500,000																																										

	ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
① 企業立地奨励金による支援企業数(社)	6	2	1	1		10
② 新規雇用人数(企業立地奨励金実績)(人)	12	0	3	0		50
③ ★創業者数(件)	-	1	7	12		20 (H29～33)
④ ★観光物産協会がブランド認定(推奨)する企業数(社)	-	-	5	7		5 (H29～33)
⑤ 年間道の駅入込客数(人)	-	-	-	-		500,000

進捗状況評価	現状分析	<p>●「企業立地奨励金による支援企業数」及び「新規雇用人数」は、ベース値と比べても厳しい状況が続いている。つくばの里工業団地拡張による用地の売却状況によっては、数値の上昇も期待できるが、目標値の達成は難しい状況である。</p> <p>●「創業者数」は、新たに5人が創業し、累計12人となった。創業スクールやビジネスコンテスト、社長塾等、創業支援の取組が徐々に浸透しているものと思われ、定着することでさらなる数値の向上、目標の達成が期待できる。</p> <p>●「観光物産協会がブランド認定する企業数」は、前年度に引き続き、新ブランド「プティアクーユ龍ヶ崎」の認定数が目標値をクリアしている。</p> <p>●道の駅整備の進捗については、護岸工事の修正設計や不測の埋設物などへの対応が必要となったことから、整備スケジュールなどの再検討を行っている状況である。</p>
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> 進捗に遅れがある
	今後の施策・事業展開の方向性	<p>つくばの里工業団地拡張事業は、造成を完了し、早期の分譲開始と企業立地を目指していく。また、起業・創業支援については、これまでの成果を検証しつつ、ニーズに応じた独自の取組を推進し、引き続き事業を実施しながら、より効果的な事業展開を模索していく。また、道の駅の整備については、関係機関との連携を図りながら、引き続き早期の整備を目指した取組を進める。</p>

② 若者、女性、アクティブシニア層を中心とした人材の育成・還流・定着の支援

若者・女性の雇用機会の拡大やスキルアップのための支援を図るとともに、元気な高齢者の活躍の場、雇用の場を創出します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.89～91】		●若者のスキルアップ支援 保育士や幼稚園教諭の資格取得に係る資金貸付、市内保育所等に就労する保育士への家賃補助制度の拡充を図ったほか、ハローワークと連携した合同就職説明会を開催した。 ●その他の事業 アクティブシニア向け就職相談会の開催やシルバー人材センターの活性化による高齢者の雇用の充実、コミュニティビジネス起業者支援など					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	ハローワークとの連携による新規就職者数(人)	—	3	1	1		10
②	流通経済大学卒業生の市内企業等への就職者数(人)	9	14	13	14		30
③	★コミュニティビジネスの起業者数(件)	0	0	0	0		10 (H29～33)
進捗状況評価	現状分析	●「ハローワークとの連携による新規就職者数」や「流通経済大学卒業生の市内企業等への就職者数」は、昨年度と同程度の水準で推移しており、目標達成は厳しい状況である。就業を希望する者とのギャップが生じており、マッチングが適切に機能していないことが要因であると考えられる。 ●保育士等修学資金貸付制度や保育士等就労促進家賃補助制度の拡充をした結果、制度を活用し、就業した者の数が増加している等、取組の成果が現れているものの、目標値を達成する水準までは到達していない。 ●「コミュニティビジネスの起業者数」は、昨年度に引き続き0件であった。支援補助金の申請・相談は寄せられるものの、起業には至っていない。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	ハローワークや商工会、大学・高校の進路担当者と引き続き連携を図りながら、地元就職促進のための支援を継続する。さらに、既存の枠組みにとらわれず、就職希望者との効果的なマッチングのあり方を検討し、進めていく。また、高齢者については、多様な就業ニーズに対応した職種を確保する等、シルバー人材センターの機能強化を図っていく。					

③ 認知度向上、地域ブランド確立等による付加価値の向上

本市の認知度向上とイメージアップを図るため、自然環境、歴史、農産品、物産品など、様々な地域資源の魅力を向上させるとともに、効果的な情報発信を推進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.92～96】		●シティプロモーション事業 JR常磐線龍ヶ崎市駅誕生と連動したイメージアップポスターの作成に関連し、「りゅうほー」でのポスターのイラスト原作者の特集記事を掲載するとともに、市子育て支援サイト「龍ヶ崎 たつのこアクション」内に市民等のユーザー投稿機能を設ける等、双方向型の情報発信機能の充実を図った。また、LINEを使いターゲティング広告を配信する等、市の認知度・イメージアップを図る取組を行った。 ●地域ブランド力の向上 「るるぶ特別編龍ヶ崎」を増ページし、30,000部発行し、各種イベント等の際に配布を行った。また、茨城県のテレビ事業と連携し、番組内で市のPRを行った。 ●道の駅の整備【再掲】、牛久沼の有効活用、道の駅総合プロデュース 道の駅整備に係る基本・実施設計を行い、護岸改修工事を実施し、設計者・指定管理者候補者との協議を継続して行った。また、道の駅を核とした牛久沼周辺の有効活用についての具体的施策について、牛久沼周辺首長会議の構成市との実務者協議を行った。					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	龍ヶ崎市に対して「自分のまち」という愛着を感じている市民の割合(%)	69.5 (H28)	-	69	-		75
②	★体験型産業観光プログラム数(件)	-	1	1	1		2 (H29～33)
③	★観光物産協会がブランド認定(推奨)する企業数【再掲】(社)	-	-	5	7		5 (H29～33)
④	★龍ヶ崎ブランド認定制度によるブランド件数(社)	-	-	-	-		5 (H29～33)
⑤	年間道の駅入込客数【再掲】(人)	-	-	-	-		500,000
進捗状況評価	現状分析	●「龍ヶ崎市に愛着を感じている市民の割合」は、市のイメージアップポスターをポスターとして掲出するのみならず、幅広い展開を行うことや市民と双方向型の情報発信を重視する等、市に愛着を持つような取組を推進しており、今後数値の上昇が期待できる。 ●「体験型観光プログラム数」は、新たなプログラムの作成に至っておらず、目標達成には視点を変えたさらなる展開が必要となる。 ●「龍ヶ崎ブランド認定制度によるブランド件数」や「道の駅入込客数」は、現時点で制度構築に至っていない又は施設整備に至っていない。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	JR常磐線龍ヶ崎市駅の誕生を契機とした、本市の認知度向上、関係人口の増加に向けて、ブランド化等を引き続き推進し、まちの魅力を高めていくための施策や若者のシビックプライドを高める施策を行っていく。シティプロモーションやブランド力の向上には、市民や団体等との連携が重要であるため、取組で得た市民や団体等の関係性を十分に発揮し、より効果的で魅力的な取組・施策を検討・実施していく。また、道の駅の整備については、関係機関との連携を図りながら、引き続き早期の整備を目指した取組を進める。					

④ 農業の活性化支援

JAなどの関係機関と連携し、農業者の経営安定と担い手の育成、新規就農者の増加に努めるとともに、農産品のブランド化や地産地消を促進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.97～102】		●龍ヶ崎ブランド農産品の拡大 若手生産者による「龍ヶ崎しんりょく会」と連携し、市産100%の農産物(じゃがいも)を活用した新製品開発(コロッケ)を行った。また、大規模農業生産法人の誘致等に向けた調査を実施した。					
		●直売の場の拡大 「たつのご産直市場」による農産物等の直売を実施し、「まいんバザール」や「日曜朝市やさい村」、「たつのごマルシェ」等のイベントや新たに市役所正面玄関前での出張販売を行う等、生産者の直売の場の拡大を図った。					
		●その他の事業 大学と連携した市産農産物を活用した加工食品の開発、地域おこし協力隊によるグリーンツーリズムの推進、飼料用米生産支援、畑作農業ステップアップ支援事業、新規就農者経営支援事業など					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	農業後継者の育成など農業の振興に満足している市民の割合(%)	7.8 (H28)	-	9.3	-		13
②	直売の場の提供回数(常設を除く。)(回)	25	43	35	62		40
③	農業体験の参加者数(人)	319	288	362	258		500
進捗状況評価	現状分析	●「農業後継者の育成など農業の振興に満足している市民の割合」は、直売の機会の拡大や担い手農業者向け支援制度の有効活用、市独自の補助事業をスタートさせたこと等により、今後も上昇していくことが期待できる。 ●「たつのご産直市場」は、公式インスタグラムを開設し、魅力ある市産農産物等のPRを行う等、市内外の認知も向上し、前年度と比べて売上げが向上している。 ●「直売の場の提供回数」は、まいんバザールや日曜朝市やさい村、たつのごマルシェ以外にも出張販売を行う等の取組により、大きく上昇した。 ●「農業体験の参加者数」は、学校行事として移管された事業があったため、数値が減少しているが、当該事業を含めると、参加者数は、新たに延べ196人の増加となっている。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	たつのご産直市場の売上増加等、この間の取組が効果を現わしている。引き続き、直売の場の確保等、市農産品の販路拡大や魅力向上に努める取組を行っていく。また、農業者の所得向上や担い手の育成、地域資源としての農業振興など、農業活性化に向け、引き続き取り組んでいく。					

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略3】地域活性化「まちの活性化と認知度向上」
目標	【目標⑨】大学と連携した特色あるまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	大学のあるまちという魅力を活かし、まちと大学の双方の活性化につながるような連携体制を充実させていきます。

2 各施策の進捗状況について

① 龍・流連携事業の認知度の向上

龍・流連携事業や大学情報の積極的な発信に努め、龍・流連携事業の認知度の向上を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.103】		●龍・流連携事業に関する情報の発信 流通経済大学運動部の情報や龍・流連携協定締結15周年記念事業の市民大学講座等の情報を市公式ホームページやSNS、龍ヶ崎市駅東口に設置してあるデジタルサイネージ等、様々な媒体を活用し、リアルタイムでの情報発信に努めた。					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	市民の龍・流連携事業の認知度(%)	36.9 (H28)	-	41	-		42
進捗状況評価	現状分析	●「龍・流連携事業の認知度」は、この間のアンケートでも徐々に数値が上昇してきており、15周年を迎え市民の認知は高まってきていると考えられ、今後も上昇していくことが期待できる。					
	進捗状況	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	情報の発信は、費用対効果を考慮しながら、現行方法により継続的に取り組む一方、市公式LINE等、市全体の情報発信機能が拡充してきていることから、これらを活用した発信も行っていく。また、SNSでの発信、広報紙への掲載については、その頻度や効果的な方法を検討し、幅広い世代の市民に情報が届くようさらなる向上を図る。					

② 大学(学生)・市民の交流促進

流通経済大学の豊富な人材や充実した施設を活用し、市民の関心の高い講座やイベントを開催し、大学(学生)と市民の交流の促進を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.104】		●流通経済大学運動部との連携【再掲】 運動部応援バスツアー開催や野球、サッカー、ラグビー、陸上競技の公式戦が市内で開催される時の施設の優先利用、公式戦開催の周知・PRや集中応援日の告知等により、市民と大学運動部との交流促進に努めた。また、世界で活躍する流通経済大学卒業生の応援活動を実施し、ラグビー日本代表の中島イシレリ選手の市への表敬訪問では、歓迎セレモニー等を開催し、その様子を広く市民に周知し、市役所・たつのこアリーナで、同選手のサイン入りボールやユニフォームの展示を行う等、市民がスポーツを身近に感じられる取組を実施した。					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	市民大学講座の延べ参加者数【再掲】(人)	113	625	661	580		160
②	総合運動公園における流通経済大学運動部公式戦の開催数【再掲】(試合)	39	38	41	39		40
③	流通経済大学運動部公式戦応援ツアーの延べ参加者数【再掲】(人)	58	35	74	49		80
進捗状況評価	現状分析	●「総合運動公園における流通経済大学運動部の公式戦の開催数」は、各施設が外的要因であるが、国民体育大会開催に伴う一般利用の制限や新型コロナウイルス感染症に伴う閉館等を行ったことにより、前年度に比べ、減少している。 ●「運動部公式戦応援ツアー延べ参加者数」は、全国大会やリーグ戦の決勝等、市民の関心の高い試合を選択し、実施しているものの、平日夜間等になる場合がある等、参加者数が伸びなかった。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	流通経済大学運動部を中心に、市民と大学の連携については、引き続き更なる強化を進めていくとともに、運動部ツアー開催に当たっては、市民にとって魅力的な内容となるよう、検討をしていく。また、市民大学講座等の取組も、同様に講座に市民に参加してもらうために必要なことを調査・分析した上で、実施していく。					

③ 産・学・官連携の充実

市と大学に企業等も交えた連携体制の充実を図り、卒業生の定住を促進するとともに、大学の知見を活かした産業の活性化やにぎわいの創出、まちの活性化に向けた取組を進めます。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.105～108】		<p>●大学卒業生などの地元就職の促進、若者のスキルアップ支援【再掲】 市内高校を対象とした企業訪問学習会の実施、流通経済大学の企業合同説明会への参加等、大学や高校との連携による地元就職機会の促進に努めるとともに、茨城県の雇用促進事業と連携し、文化会館において「就職・転職フェア」を実施した。また、保育士や幼稚園教諭の資格取得に係る資金貸付、市内保育所等に就労する保育士への家賃補助制度の拡充を図ったほか、ハローワークと連携し保育士等合同就職説明会を開催した。</p> <p>●保育分野での連携 八原保育所において、流通経済大学田中光教授の指導の下、運動プログラム等を実施したほか、高校生・大学生の保育実習生の受入れを行った。</p> <p>●学生割引サービスの拡充 新規に4店舗を協力店として登録し、大学生へ向けたサービスの周知(ポスター・ペナントの店舗設置、リーフレットの配布、市公式ホームページ・SNSでの記事掲載)を行った。</p>					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	★体験型産業観光プログラム数【再掲】(件)	—	1	1	1		2 (H29～33)
②	流通経済大学卒業生の市内企業等への就職者数【再掲】(人)	9	14	13	14		30
③	学割サービスの延べ利用件数(件)	5,948	10,785	6,281	5,213		7,140
進捗状況評価	現状分析	<p>●「流通経済大学卒業生の市内企業等への就職者数」は、昨年度と同程度の水準で推移しており、目標達成は厳しい状況である。一方で、高校生や大学生等へ向けた就職説明会等の取組は拡充されていることから、就業を希望する者とのギャップが生じており、マッチングが適切に機能していない可能性があるものと考えられる。</p> <p>●「学割サービスの延べ利用件数」は、前年度から減少し、目標に満たない数値となった。協力店は増加しているが、一方で店舗の脱退や閉店等もあり、利用件数が伸び悩んでいる。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input checked="" type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	産・学・官連携による地域活性化に向け、龍・流連携をさらに強化するとともに、企業も交えた連携体制を強化させていく必要がある。さらに、既存の連携の方法以外にも、マッチング方法等については、学生のニーズを把握し、新たな取組による機会の創出も検討していく。					

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略4】地域力の向上「安全・安心で住みよい環境づくり」
目標	【目標⑩】防災・減災日本一【重点目標】
基本的方向性 (抜粋)	防災基盤の充実を図るとともに、消防団を中核とした地域の防災体制の充実を図ります。また、市民一人ひとりの防災・減災意識の高揚を図るなど、自助・共助・公助のバランスの取れた取組を推進し、防災・減災日本一のまちを目指します。

2 各施策の進捗状況について

① 防災基盤の充実

地域防災計画や関連マニュアルの見直し、災害時における円滑な情報伝達手段の確保、災害備蓄の充実など、有事に即応できる体制の充実と災害による被害を最小限にとどめるための取組を進めます。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.109～112】	<p>●災害備蓄の充実と災害時応援協定等の拡大 災害時における市の備蓄品について、整備計画を策定し、当該計画に基づき、飲料水及び備蓄食料の購入を行った。また、有事に備え、民間事業者3者と災害時応援協定を締結した。</p> <p>●防災貯留型トイレの整備 避難所仮設トイレシステムである防災貯留型仮設トイレシステム(マンホールトイレ)の設置を計画的に進め、たつのこアリーナをはじめ、小中学校を含め、合計5か所への整備を完了した。また、市内4地区の学校と地域が共同して行う合同防災訓練において、防災貯留型仮設トイレシステムを活用した訓練を実施した。</p> <p>●防災行政無線のデジタル化 設計と施工一体型のプロポーザル契約により、防災行政無線のデジタル化に係る工事請負契約を締結し、今年度は、現場調査と実施設計を行った。</p> <p>●その他の事業 宅地耐震化推進事業(大規模盛土造成地の簡易地盤調査)など</p>						
	重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値	ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
① ★災害時応援協定等の締結数(件)	35	38	40	43		47	
② ★消防水利数(か所)	959	969	969	970		979	
③ ★避難所仮設トイレシステムの整備数(か所)	-	2	7	12		20	
④ ★住宅の耐震化率(%)	88.2	-	-	-		95	
進捗状況評価	現状分析	●災害時応援協定等の拡大や防災貯留型仮設トイレシステムの整備をはじめ、消火栓の整備、情報発信の強化等、防災基盤の充実に向けた取組を着実に進めており、各数値とも、目標値を達成できる水準で推移している。					
	進捗状況	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	災害等の発生に対し迅速かつ的確な対応がとれるよう、平時からの職員の危機管理意識の向上を図るとともに、災害時の運用を円滑にするための、計画や対応マニュアルの見直し・検証、防災貯留型仮設トイレや災害時の情報発信ツールを活用した訓練や新型コロナウイルス感染症への避難所運営の対応訓練等、あらゆる災害事象の発生を想定して、地域と連携しながら、引き続きその対策に取り組んでいく。					

② 消防団を中核とした地域防災体制の充実

地域防災の中核として消防団の充実強化を図るなか、自主防災組織の活動の活性化や地域防災リーダーの育成、市民の防災・減災意識の高揚を図るなど、自助・共助力の向上を目指します。また、コミュニティセンターを単位とした区域ごとに、地域の実情を反映した地区防災計画を策定するほか、複数の自主防災組織、消防団、小学校などが合同で防災訓練を実施するなど、スケールメリットを活かした共助力の強化に努め、地域における防災体制の充実を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.113～116】		● 地区防災計画の策定 地区防災計画策定については、現段階で2地区で策定が完了し、4地区については現在作成を進めており、また、1地区は検討段階に入った。 ● 地域における防災訓練の充実 地域における防災訓練は、合計で43回開催され、延べ約7,000人の参加があり、地域コミュニティ組織単位の防災訓練も、市内13地区全てで開催された。また、防災に関する出前講座を実施する等、防災意識の向上を図った。 ● 防災士の育成・養成 地域における防災体制の強化を図るため、市民が防災士の資格取得をするに際して補助金の交付を行った。また、防災士の防災知識・技術を向上させるための研修会を実施した。 ● その他の事業 消防団への入団促進、消防団の資機材の整備など						
		重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績
①	★地区防災計画の策定地区数(地区)	-	1	2	2			13
②	★自主防災組織の防災訓練実施率(%)	89.9	100	92.3	100			100
③	★消防団員数(人)	518	512	513	491			550
④	★防災士数(人)	140	238	248	261			270
⑤	★災害時避難行動要支援者避難支援プラン個別計画作成希望者の割合(%)	32.4	33.9	33.3	32.6			35
⑥	防災に関する講演会・研修会(出前講座等)の開催数(回)	9	27	13	11			13
⑦	3日以上分の水・食糧を備蓄している市民の割合(%)	26.7 (H25)	-	38.7	-			32
進捗状況評価	現状分析	●災害に備えて訓練を積み重ねることは、非常に重要な取組であり、継続した取組が適切な行動につながる効果を発揮する。以上のことから、自主防災組織や各種団体等との連携・支援を図り、地域の災害対応力の強化に資する事業を展開しており、計画的かつ着実な取組を進めていくことで、訓練の実施率や消防団員・防災士の数等の指標で、目標値達成が見込まれる推移となっている。 ●一方、地区防災計画の策定数は、策定済みが2地区、作業中・検討中が5地区となっており、前年度と変化がない状況である。						
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある						
	今後の施策・事業展開の方向性	自助・共助・公助の総合的な防災力の向上を図り、ハード・ソフト対策を重層的に組み合わせた防災・減災の取組を推進し、市全体で大規模な災害への防災力の向上を図っていく。一方で、災害時の対応を円滑に行うためにも、地域における地区防災計画策定を推進し、全13地区においての策定を目指していく。						

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略4】地域力の向上「安全・安心で住みよい環境づくり」
目標	【目標①】地域がつながる、安全・安心なまちづくり
基本的方向性 (抜粋)	地域の住民が互いに支え合い、安全・安心に住み続けられるよう、地域の力を維持・向上し、地域間の市民交流を促進することや、人と人とのつながりを活かした地域づくりを進めることなどにより、市民がいつまでも住み続けたいと感じるような安全・安心なまちづくりを進めます。

2 各施策の進捗状況について

① 市内公共交通網の充実

高齢者や子どもにも利用しやすく、市内各地域へ移動しやすい公共交通網の充実を図るとともに、公共交通の利用促進を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.117～119】		<p>●コミュニティバス運行計画の再編 令和元年9月に運行計画再編を実施した。運行ルート・ダイヤの変更、料金の見直し等を行うとともに、市役所の停留所をはじめとした停留所の整備、関東鉄道竜ヶ崎線竜ヶ崎駅の待合室「りゅう舎」の整備、バスロケーションシステムの導入等を行った。また、バスの待合の環境を快適にするため、停留所付近の協力施設内での待合を行う「まてまて」の制度を展開し、利用者の利便性向上を図った。</p> <p>●高齢者公共交通共通定期券の発行 高齢者公共交通共通定期券「おたっしゅパス」の発行について、販売対象年齢の拡大や定期券の有効期間の延長等の取組を行い、利用促進を図った。</p> <p>●バスロケーションシステムの導入 コミュニティバス利用者の利便性や快適性の向上を図るため、運行計画再編にあわせ、バスロケーションシステムを導入した。</p>					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	コミュニティバスの年間利用者数(人)	190,570	191,939	192,745	197,776		205,000
②	高齢者向け市内公共交通共通定期券の延べ 売上月数(月)	261	370	300	787		342
進捗 状況 評価	現状分析	<p>●「コミュニティバスの年間利用者数」は、コミュニティバスの運行計画再編に伴う利便性の向上等に起因して、前年度と比べ、約5,000人の増加となっている。</p> <p>●「高齢者向け市内公共交通共通定期券の延べ売上月数」は、前年度と比べ大幅に増加している。コミュニティバスの運行計画再編に併せ、対象年齢の拡大等による利用促進を図った結果、利用者が増加したことが要因と考えられる。</p> <p>●コミュニティバスの運行計画再編に併せた、バスロケーションシステムの導入や停留所の環境整備、「まてまて」等の取組により、今後、利用者数が大きく伸びることが期待される。</p>					
	進捗状況	<p>■ 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある</p> <p><input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある</p>					
	今後の施策・ 事業展開の方向性	<p>令和元年9月のコミュニティバス運行計画再編を踏まえ、引き続き、利用者の動向や乗車率等の情報を調査・分析し、必要な施策を展開していく。その中でも、乗車率の低い路線等、課題については、利用者の利便性を維持しつつも、効果的な運行がされるように見直しを行う等、適時適切な対応を行っていく。</p>					

② 地域コミュニティを核とした地域力の向上

コミュニティセンターを単位とした中核的な地域コミュニティの形成及びその活動の促進を図るほか、地域コミュニティ活動の活性化に向けた環境整備を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.120~123】		● 地域交流拠点づくりの推進 JR常磐線龍ヶ崎市駅西口に社会福祉協議会西口支所が整備され、地域の交流拠点としての運用が開始された。 ● 中核的な地域コミュニティ活動の促進 松葉地区で中核的な地域コミュニティが設立され、市内全13地区に地域コミュニティが設立された。また、若手農業者で構成する「しんりよく会」との連携を図り、地域×農業の取組を検討した。 ● 長戸コミュニティセンターの建て替え 新長戸コミュニティセンター建設に向け、敷地の所有権移転登記や境界確定作業を行った。 ● その他の事業 地域づくり補助金制度など					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	地域での助け合いやボランティア活動に満足している市民の割合(%)	28.9 (H28)	-	30.8	-		34
進捗状況評価	現状分析	●令和元年度に松葉地区で中核的な地域コミュニティが設立され、市内全13地区において地域コミュニティが立ち上がった。 ●「地域での助け合いやボランティア活動に満足している市民の割合」は、地域での登下校時の見守り活動や環境美化活動等をはじめとした様々な展開が、徐々にではあるが数値の上昇につながっているものと期待される。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	市内全地区で中核的な地域コミュニティが立ち上がり、今後は、それぞれの地域で地域の課題に応じた取組を推進するに当たっての支援が重要となる。また、組織の高齢化も大きな課題であり、若者の参画の取組を引き続き推進し、今後のあるべき姿について地域コミュニティ協議会とともに検討していく。					

③ 地域の防犯体制の充実

防犯カメラの設置など、地域の安全性の基盤を整備するとともに、地域での見守りやパトロールなど様々な活動主体による地域防犯活動を促進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.124～125】		<p>●地域での見守り、助け合い活動の支援 地域の防犯見守り活動については、中学生一日防犯連絡員活動や地域安全キャンペーンの実施等、身近な防犯体制の強化と防犯意識の高揚を図った。また、高齢者等の安心安全を維持するため、市民や事業者等の協力の下、見守りネットワーク事業を推進し、協力者を募るため、地域包括支援センター等で実施する講座等の際に、勸奨を行った。</p> <p>●地域の安全・安心の基盤向上 防犯や犯罪抑制の観点から、竜ヶ崎警察署と協議を行い、新たに3か所の交差点に防犯カメラを新設した。また、地域団体に対する防犯カメラ設置補助事業については、市広報紙等で周知を行うなど、市民の事業への理解を進め、2団体・3基の交付決定を行った。地域の防犯灯については、LED化を促進し、地域からの要望に応じてLED防犯灯を設置した。</p>					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	犯罪や非行防止などの治安対策に満足している市民の割合(%)	27.8 (H28)	-	30.2	-		33
②	防犯パトロールの実施団体数(団体)	18	18	18	19		18
③	★見守りネットワーク参加事業所・市民の数 (団体・人)	416	700	712	748		500
進捗状況評価	現状分析	<p>●「犯罪や非行防止などの治安対策に満足している市民の割合」は、防犯連絡員による登下校時の見守り活動や防犯サポーターによるパトロール、また、防犯カメラや防犯灯の新設等が継続的かつ確実に実行されており、今後数値の上昇が期待できる。</p> <p>●「防犯パトロールの実施団体数」は、目標値である18団体を越え、19団体で実施できている。防犯連絡員の高齢化や新たな連絡員のなり手不足という問題を抱える中ではあるが、防犯キャンペーン等の開催により、防犯活動の重要性や防犯活動への参加意欲の向上を図ったことが要因であると考えられる。</p> <p>●「見守りネットワーク参加事業所・市民の数」は、前年度に比べ、数値が上昇しており、目標値をクリアしている。市民や事業者等への周知・勸奨が積極的に行われていることが要因の一つであると考えられる。</p>					
	進捗状況	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある </p>					
	今後の施策・ 事業展開の方向性	引き続き、防犯カメラやLED防犯灯の整備等、犯罪抑止効果が期待される防犯インフラの整備を、警察や地域と協議を行いながら計画的に推進していく。また、地域における防犯環境の向上のため、防犯連絡員協議会をはじめとする防犯団体や警察署と連携しながら、防犯体制の強化に努めていく。					

④ 空家等対策の推進

多くの問題を抱える空家等の発生抑制に努めるとともに、やむを得ない事情で発生した空家等の適正管理を促進します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.126～127】		●空家等対策の推進 「龍ヶ崎市空家等の適正な管理に関する条例」に基づき、空家等対策推進協議会における審議を経て、特定空家7件を認定した。また、管理不全な空家等の所有者等に対し、改善指導を行い、適正管理及び空家等に起因する犯罪等の未然防止に努めた。さらに、空家等に関する問題への専門的対応のため、茨城県弁護士会と協定を締結し、加えて、弁護士・司法書士・宅地建物取引士・建築士による空家相談会を開催する等、相談体制の充実に努めた。 ●その他の事業 空家バンク制度【再掲】など					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	★適正管理を促した空家等のうち、改善された空家等の割合(%)	24.0	60.8	74.4	68.8		30 (H27～33)
進捗状況評価	現状分析	●「適正管理を促した空家等のうち、改善された空家等の割合」 は、引き続き、ベース値・目標値を大きく上回っており、「龍ヶ崎市空家等の適正な管理に関する条例」に基づく空家等の適正管理等の取組が効果を上げている。 ●空家等対策 に関しては、「龍ヶ崎市空家等の適正な管理に関する条例」に基づき、特定空家の認定、管理不全の空家等への改善指導をはじめ、相談体制の整備等の取組が進んでおり、今後、さらに取組が加速することで、適正な管理が進んでいくと考えられる。					
	進捗状況	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	管理不全な空家等の問題の改善・解消及び空家等に起因する犯罪等の未然防止を図るため、引き続き、空家等の所有者等への改善要請や改善指導に取り組んでいく。また、専門家による空家相談会の開催や空家等の適正管理に関する啓発チラシ等の活動も、積極的に実施していくことで、空家等の適正管理を促進していく。さらに、移住・定住の視点も含め、空家の有効活用を図るための取組についても推進する。					

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略4】地域力の向上「安全・安心で住みよい環境づくり」
目標	【目標②】スポーツ健幸日本一【重点目標】
基本的方向性 (抜粋)	市民がスポーツ・運動を通じた健康づくりに取り組む環境を整備することで、健康寿命の延伸を図るとともに、高齢者が「健幸」な長寿社会を目指すなど、市民が生涯にわたり健やかで幸せな生活を送ることができるスポーツ健幸日本一のまちを目指します。

2 各施策の進捗状況について

① スポーツ・運動を通じた健康づくりの推進

市民誰もがスポーツ・運動に親しみながら、健全な心身を養い、健康づくりを進められる環境を整備することなどにより、市民の健康寿命の延伸を図ります。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.128～132】		<p>●健康寿命の延伸に向けた運動習慣の普及、健幸マイレージ事業 健康維持のための各種講座等に取り組む一方、てくてくロードや健幸ウォーキングマップを利用し、市民のウォーキングへの取組を支援し、ウォーキング等の歩数に応じてポイントを付与する健幸マイレージ事業を実施し、市民のさらなる運動習慣の定着を促進した。</p> <p>●ニュースポーツの推進 スポーツ吹矢やユニカール、ヘルシーボール等の体験教室や大会を開催し、ニュースポーツの普及啓発に努めた。</p> <p>●マラソン大会開催の推進 マラソン大会の実施に向けた運営組織の形態を検討し、会場・コース・交通規制計画等を作成した。</p> <p>●その他の事業 旧北文間小学校でのスポーツ健康拠点の整備に向けた解体・改修工事計画の策定など</p>					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	スポーツイベント(市民スポーツフェスティバル等)の延べ参加者数(人)	7,378	6,844	8,285	8,756		8,800
②	スポーツ教室の延べ利用者数(指定管理者)(人)	42,613	56,959	47,895	45,635		51,000
③	ニュースポーツ教室・大会の延べ参加者数(人)	1,035	898	1,157	1,238		1,200
④	ふるさとふれあい公園(グラウンドゴルフ場・ゲートボール場・ディスクゴルフ場)の延べ利用者数(人)	15,454	15,795	15,650	15,322		18,000
⑤	てくてくロードを歩いた延べ人数(人)	1,528	1,911	1,176	974		2,300
⑥	健康ウォーキング講座の延べ参加者数(人)	217	243	243	850		450
⑦	いきいきヘルス体操教室の延べ参加者数(人)	21,596	21,982	19,492	18,745		25,000
進捗状況評価	現状分析	<p>●「スポーツイベント(市民スポーツフェスティバル等)の延べ参加者数」や「ニュースポーツ教室・大会の延べ参加者数」は、ベース値・前年度と比べても増加し、目標値達成又は達成が可能な状況となっている。対象種目を増やす、開催時期や場所を変更する等、改善に向けた取組が功を奏したものと考えられる。</p> <p>●「健康ウォーキング講座の延べ参加者数」は、前年度と比べ、大きく増加した。近年の健康意識の高まりに、ウォーキングイベントや、健幸マイレージ制度等、需要を的確に把握した取組が大きく影響を与えたものと考えられる。</p> <p>●一方、その他の指標は、前年度と比べて減少傾向にあるが、一部は新型コロナウイルス感染症の影響や国民体育大会開催に伴う一般利用制限等が影響している。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	スポーツに関する事業やイベントは、今後も事業内容等の検証をしながら、市民の健康意識を高め、健康寿命の延伸を図れるよう、事業を推進していく。また、目的や対象者を別にするものの、同種の内容・取組となるイベントや講座については、可能な範囲で、コラボレーションや共同開催等を進めることで、事業運営の効率化や事業内容の魅力を高め、参加者の増加につなげていく。					

② 高齢者の「健幸」力の向上

高齢者の心身両面での健康づくりを推進するとともに、社会参加や生きがいがづくりに親しみやすい環境を整備します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.133～136】		● 健康づくりの推進(健診環境の改善、胃がん医療機関検診事業) 特定健康診査における受診勧奨に当たっては、過去の受診歴の有無やレセプトの有無によりグループ分けを行い、内容を変えた通知を送付する等、より実効性のある通知となるよう事務の変更を行った。また、胃がん検診については、医療機関検診を開始し、受診者のニーズの多様化に対応できるよう、取組を行った。 ● 新保健福祉施設の整備 新保健福祉施設の整備に向けた庁内の検討作業等を行った。 ● (仮称)まいん「元気」サポートセンター 令和2年2月にまいん「健幸」サポートセンターを開設し、高齢者等の健康づくりに資する教室や講座の開催を行った。					
重要業績評価指標(KPI) ★:R3年度までの累積による目標値		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	特定健康診査受診率(国民健康保険加入者)(%)	28.4 (H26)	28.6	33.3	31.6 (速報値)		48
②	★要介護認定率(%)	12.1	12.0	12.1	12.3		13
③	生きがいがづくりや趣味を楽しむ機会・場所に満足している市民(61歳以上)の割合(%)	35.5 (H28)	—	33	—		50
④	高齢者活動団体への助成数(団体)	—	5	8	13		15
進捗状況評価	現状分析	●「特定健康診査受診率(国民健康保険加入者)」は、前年度と比べて減少しているが、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられる。取組では、引き続き未受診への受診勧奨通知を過去の受診歴等に応じてグループ分けし、当該グループによって通知内容を変える等を行っており、受診者増加に向けた取組が継続されている。 ●「高齢者活動団体への助成数」は、前年度に比べ、助成数が増加しており、制度の周知が徹底されていること等を要因としているものと考えられる。					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗に遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗に遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	引き続き、市民の健康寿命の延伸に向けての取組を推進していくとともに、高齢者の生きがいがづくりについては、特定の団体への支援にとどまらず、新たな活動の場の掘り起こしや支援策等を検討し、高齢者がいきいきと活躍できるよう取り組んでいく。					

令和元年度 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン施策評価シート

1 基本情報

戦略	【戦略5】持続可能な行財政運営「将来につながる基盤づくり」
目標	【目標③】健全で効率的な行財政運営の推進
基本的方向性 (抜粋)	市民ニーズの多様化や需要増に対応できる人材の育成と確保、有効活用の観点による公共施設の効率的な管理運営に加え、財政健全化に努めていくことで、将来を展望した経営的な視点による健全で効率的な行財政運営を推進していきます。

2 各施策の進捗状況について

① 人員の確保と人材育成の強化

業務量に応じ、適切な人員確保・配置を行うとともに、市民ニーズの高度化・多様化にも対応し、政策を実現できる人材の育成に取り組みます。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.137~138】		<p>●人材育成基本計画の推進 階層別研修や専門研修、特別研修等、延べ940人の職員が研修に参加し、職員のスキル・能力の向上を図った。特に、早稲田大学マニフェスト研究所人材マネジメント部会へ職員3人を派遣し、組織のあり方やファシリテーション手法、対話等による課題解決手法等を、「研究する」というスタンスで取り組み、市長・副市長に成果報告を行った。また、働き方改革に関連して、管理職以上の職員のチャレンジシートに一項目を位置付け、取り組んだ。</p> <p>●人員管理計画の推進 今年度から会計年度任用職員の制度運用が開始された。また、職員採用に当たって、知識偏重の採用試験とならないよう、「総合能力試験(SPI3)」の導入を図り、また、個別面接の回数を増やす等、人物重視の採用に取り組んだ。</p>					
重要業績評価指標(KPI)		ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	目標値 (R3)
①	職員研修の延べ受講者数(人)	1,107	1,217	899	940		1,162
②	職員一人当たりの年間平均時間外勤務時間数(時間)	113.9	121.1	110.5	95.6		108
進捗状況評価	現状分析	<p>●「職員研修の延べ受講者数」は、前年度と比べ、増加した。職員研修の考え方を見直し、必要な研修を適時に行うため、階層別研修等計画的に実施する研修以外にも、各課等からの要請に応じた研修の実施等に継続に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の影響で、若干数値の伸びは欠いてしまっている。</p> <p>●職員研修にはカウントされないが、職員が業務外で独自に研修等を行う「自主研修」の取組も出てきており、職員の意識の向上が見られるようになっている。</p> <p>●「職員一人当たりの年間平均時間外勤務時間数」は、働き方改革の実施に伴う各部課等における取組が効果を上げ、前年度と比べ、大きく時間数を減らし、目標値を達成した。</p> <p>●一方、職員の退職者数は、令和元年度末現在で8人となっており、「働き方改革」の推進と併せ、適切な職場環境の整備が必要な状況となっている。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗が遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗が遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	職員の資質向上や意識・行動改革を図る等、全庁的共通認識の下、人材育成に取り組むとともに、仕事の効率化・生産性の向上や、職員の働きやすい職場環境を整えるため、引き続き「働き方改革」を推進していく。人員管理については、引き続き適正な定員管理を行い、かつ、人員の適正配置を行うとともに、人物重視の採用に向け、継続して効率的な方法等について検討しつつ、実施していく。					

② 健全な財政運営の推進

市税の収納率向上への取組を推進するとともに、受益者負担や補助金・負担金の適正化、効果的な財政配分等を図っていくことで、健全な財政運営の確立を目指します。

主要事業の取組状況 (※進行管理シート参照) 【P.139～140】		<p>●第2次中期財政計画の推進 予算要求基準を見直し、一般行政経費を部単位の「枠配分」とし、担当課が主導し、事業の再編成・整理・統合・廃止、特定財源の確保等に取り組んだ。また、それらの取組に資するため、全庁対応の財政状況に関する説明会を実施する等、各部課等が財政を「自らのもの」として意識し、予算編成を行うような体制づくりを行った。結果、令和2年度予算編成では、前年度比で基金取り崩し額を約半分まで圧縮することができた。加えて、財源の確保等のため、公共用地の調査及び公共施設へのネーミングライツ導入に向けての検討を行った。</p> <p>●市税の収納率向上 収納率の向上のため、納税通知書送付時にはがき仕様の口座振替依頼書を同封し、より簡便な手法で口座振替ができるようにした。また、滞納整理については、事案に応じた取組を進めるとともに、特に徴収困難な事案については、茨城租税債権管理機構への移管を行う等、収納率の向上に努めた。</p>					
		重要業績評価指標(KPI)	ベース値 (H27)	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績
①	市税の収納率(国民健康保険税を除く。)(%)	96.63	97.51	98.63	98.09		97.63
②	基礎的財政収支(百万円)	3,053 (H26)	1,110	618	R2.12 算定予定		黒字
③	経常収支比率(%)	90.4 (H26)	93.0	95.6	94.8 (速報値)		90以下
④	積立金残高比率(%)	40.6 (H26)	43.2	40.7	35.8 (速報値)		35以上
⑤	実質債務残高比率(%)	219.2 (H26)	194.1	194.8	198.8 (速報値)		180以下
⑥	社会資本形成の将来世代負担比率(%)	29.8 (H26)	29.6	11.8	R2.12 算定予定		30以下
進捗状況評価	現状分析	<p>●「市税の収納率」は、前年度並みで推移しているものの、目標値は達成できている。収入が少なく差押できる財産がないケースや、未納のまま帰国する外国人がいる等、滞納整理が難しい滞納者の存在が影響しており、大きな伸びにはつながっていない。</p> <p>●経常収支比率は、前年度に比べ若干の良化が見られるが、引き続き、市の財政は厳しい状況にあり、一層の歳出削減、歳入確保の取組を推進していく必要がある。</p> <p>●積立金残高比率は、2年連続で歳入不足の補てんとして減債基金を取り崩したことから比率が減少したが、目標値は達成している。</p> <p>●実質債務残高比率は、昨年度に引き続き、指定管理施設の契約更新があったため、債務負担残高が増加したことで比率が上昇しているが、地方債残高は順調に減少している。</p>					
	進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調に進捗している <input type="checkbox"/> やや進捗が遅れがある <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調に進捗している <input type="checkbox"/> 進捗が遅れがある					
	今後の施策・事業展開の方向性	さらなる収納率向上に向け、引き続き現年度分を含めた滞納税の徴収強化及び整理・圧縮を図りつつ、納付環境を拡充していく。また、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う大幅な歳入減少が見込まれる状況であることや大型事業の実施等により、市債借入れの増加や基金残高の減少が懸念されることから、全庁的な共通認識の下、引き続き第2次中期財政計画に定める財政力強化の取組を推進していく。					

